



文部科学省

MINISTRY OF EDUCATION,
CULTURE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

幼児教育の現状と課題

令和3年11月20日（土）

文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課

幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会について

➤ 幼児教育の質的向上及び小学校との円滑な接続について専門的な調査審議を行うため、初等中等教育分科会の下に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」を設置（令和3年7月8日初等中等教育分科会決定）

➤ 具体的には、以下の事項について検討

1. 生活・学習基盤を全ての5歳児に保障するための方策
2. 各地域において幼児教育を着実に推進するための体制整備
3. 保護者や地域の教育力を引き出すための方策、保育人材の資質能力の向上といった幼児教育の質的向上及び小学校教育との円滑な接続を図る上で必要な事項



【委員一覧】※敬称略・五十音順

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 秋田 喜代美 学習院大学文学部教授、東京大学名誉教授 • 荒瀬 克己 独立行政法人教職員支援機構理事長 • 石戸 奈々子 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授、CANVAS 代表 • 榎本 和生 東京大学大学院理学系研究科教授 • 大竹 文雄 大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授 • 岡林 律子 高知県教育委員会事務局幼保支援課専門企画員 • オチャンテ村井ロサメルセデス 桃山学院教育大学人間教育学部人間教育学科准教授 • 神長 美津子 大阪総合保育大学児童保育学部特任教授 • 久保山 茂樹 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム推進センター上席総括研究員(兼)センター長 • 黒木 定藏 宮崎県児湯郡西米良村長 • 齋藤 孝 明治大学文学部教授 • 鈴木 みゆき 國學院大學人間開発学部教授 • 曾木 書代 社会福祉法人龍美 陽だまりの丘保育園長 • 田村 学 國學院大學人間開発学部教授 • 中井澤 卓哉 筑波大学教育学類4年、(一社)ひとと代表理事 • 中山 昌樹 学校法人中山学園理事長 • 二宮 徹 NHK解説主幹 • 平川 理恵 広島県教育委員会教育長 • 藤迫 稔 大阪府箕面市教育委員会教育長 • 堀田 龍也 東北大学大学院情報科学研究科教授、東京学芸大学大学院教育学研究科教授 | <ul style="list-style-type: none"> • 水野 達朗 大阪府大東市教育委員会教育長 • 溝上 慎一 学校法人桐蔭学園理事長、桐蔭横浜大学学長・教授 • 宮下 友美恵 学校法人静岡豊田学園 静岡豊田幼稚園長 • 無藤 隆 白梅学園大学名誉教授 • 村田 伊津子 岐阜市子ども・若者総合支援センター“E-ルぎふ”所長 • 吉田 信解 埼玉県本庄市長 • 渡邊 一利 公益財団法人笹川スポーツ財団理事長 • 渡邊 英則 学校法人渡辺学園 認定こども園ゆうゆうのもり幼保園長、港北幼稚園長 |
|--|--|
- 【オブザーバー】

 - 内閣府子ども・子育て本部参事官付（認定こども園担当）
 - 厚生労働省子ども家庭局保育課
 - 全国国公立幼稚園・こども園長会
 - 全日本私立幼稚園連合会
 - 公益社団法人全国幼児教育研究協会
 - 全国連合小学校長会
 - 日本私立小学校連合会
 - 社会福祉法人日本保育協会
 - 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育協議会
 - 公益社団法人全国私立保育連盟
 - 特定非営利活動法人全国認定こども園協会
 - 一般社団法人全国認定こども園連絡協議会
 - 認定こども園連盟

目指す方向性（たたき台）

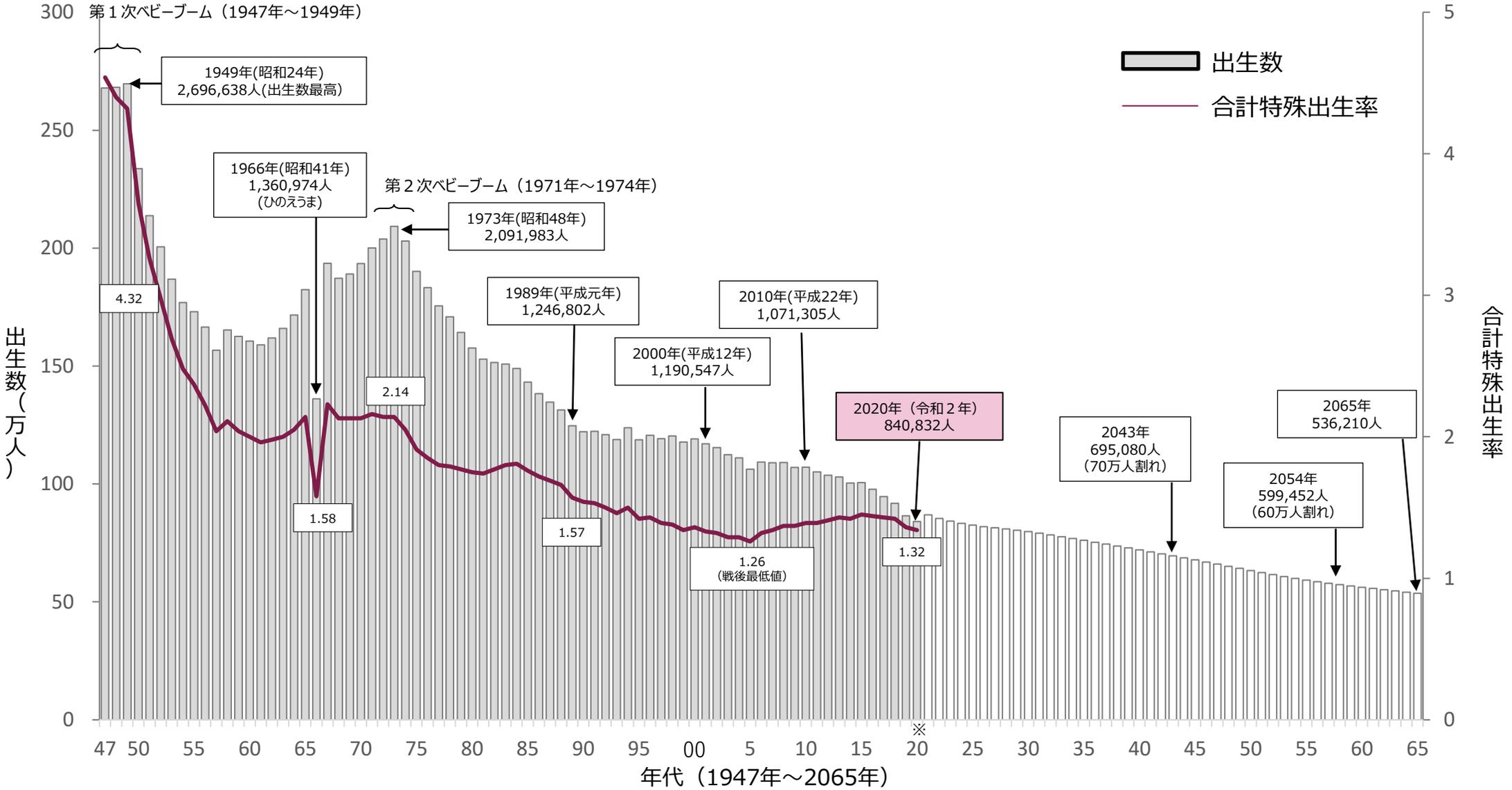
- (1)「社会に開かれた幼児教育カリキュラム」の実現に向けた、
幼児教育の質に関する認識の共有
- (2)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と各園や地域の
創意工夫を生かした幼保小の架け橋プログラムの開発・実践
- (3)全ての幼児のウェルビーイングを高めるカリキュラムの実現
- (4)幼児教育推進体制等の全国展開による、幼児教育の
質の保障と専門性の向上
- (5)地域における幼児教育施設の役割の認識と
関係機関との連携・協働等

- (1) 幼児の生活や学びをめぐる状況の把握**
- (2) 幼児教育の質に関する社会との認識の共有**
- (3) 小学校以降も見通した学びの連続性の確保**

(1) 幼児の生活や学びをめぐる状況の把握

出生数及び合計特殊出生率

- 2015年には一度復調したものの、2016年以降減少を続け2020年の出生数（概数）は840,832人で過去最低を記録している。
- 今後も減少傾向は続く予想され、2054年には60万人を割ると予想されている。2065年には2020年における出生数の約2/3に。



※ 2021年以降の推定値は国立社会保障・人口問題研究所「二音の将来推計人口（平成29年推計）（出生中位・死亡中位）」を元に作成。
 ※ 2020年の数値は概数であり、修正を加えた確定数ではないことに留意。
 ※ 1972年以前は沖縄県を含まず。
 ※ 合計特殊出生率は15歳～49歳の女性の年齢別出生率の合計を示す。

2019年10月に無償化が実現

子供が、未来をつくるから。

幼児教育・保育の無償化が始まります。



令和元年10月1日より
3～5歳児クラスの幼稚園、保育所等の利用料が無償になります。

※無償化には上限があります。また、含まれない費用があります。 ※0～2歳児クラスは住民税非課税世帯が対象です。

更新情報

令和元年9月19日 リンク集を更新しました。
令和元年8月26日 シミュレーションページを公開しました。
令和元年8月5日 幼児教育・保育の無償化 特設ページを公開しました。

20代や30代の若い世代が理想の子供数を持たない理由は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が最大の理由であり、教育費への支援を求める声が多い。子育てと仕事の両立や、子育てや教育にかかる費用の負担が重いことが、子育て世代への大きな負担となり、我が国の少子化問題の一因ともなっている。このため、保育の受け皿拡大を図りつつ、**幼児教育の無償化をはじめとする負担軽減措置**を講じることは、重要な少子化対策の一つである。

新しい経済政策パッケージについて（平成29年12月8日閣議決定）

また、幼児期は、能力開発、身体育成、人格の形成、情操と道徳心の涵養にとって極めて大切な時期であり、この時期における家族・保護者の果たす第一義的な役割とともに、幼児教育・保育の役割は重要である。幼児教育・保育は、知識、IQなどの認知能力だけではなく、根気強さ、注意深さ、意欲などの非認知能力の育成においても重要な役割を果たしている。加えて、人工知能などの技術革新が進み、新しい産業や雇用が生まれ、社会においてコミュニケーション能力や問題解決能力の重要性が高まっている中、こうした能力を身につけるためにも、幼児期の教育が特に重要であり、**幼児教育・保育の質の向上も不可欠**である。

働き方や生活様式が大きく変化

人との接触を8割減らす、10のポイント

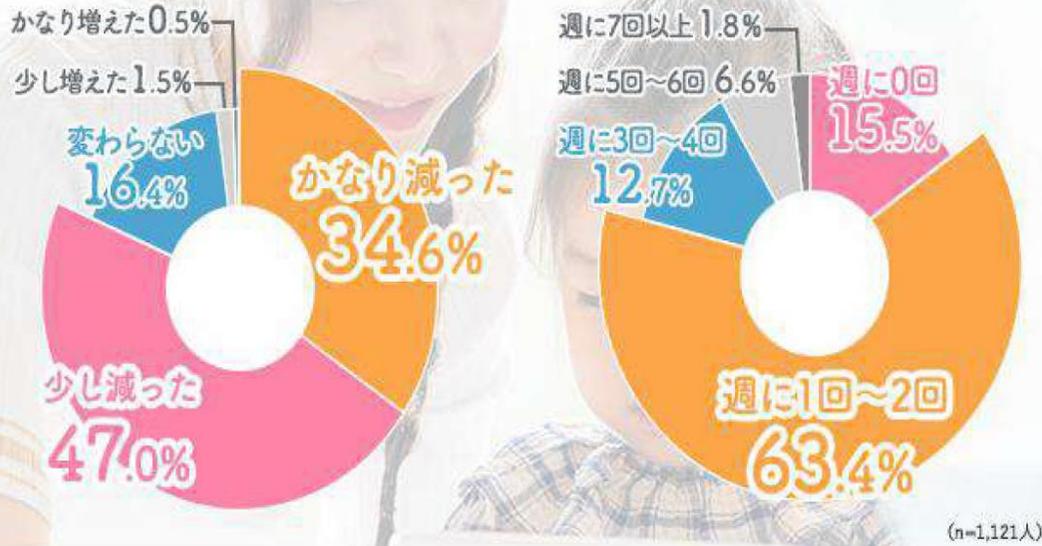
緊急事態宣言の中、誰もが感染するリスク、誰でも感染させるリスクがあります。
新型コロナウイルス感染症から、あなたと身近な人の命を守れるよう、日常生活を見直してみましよう。

1 ビデオ通話で オンライン帰省 	2 スーパーは1人 または 少人数で すいている時間に 	3 ジョギングは 少人数で 公園は すいた時間、 場所を選ぶ 	
4 待てる買い物は 通販 で 	5 飲み会は オンライン で 	6 診療は 遠隔診療 定期受診は間隔を調整 	
7 筋トレやヨガは 自宅で動画を活用 	8 飲食は 持ち帰り、 宅配も 	9 仕事は 在宅勤務 通勤は医療・インフラ・ 物流など社会機能維持 のために 	
10 会話は マスク をつけて 	3つの密を 避けましょう 1. 換気の悪い 密閉空間 2. 多数が集まる 密集場所 3. 間近で会話や発声をする 密接場面		手洗い・ 咳エチケット・ 換気や、健康管理 も、同様に重要です。

子供の遊びにも大きな影響

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、お子さまの外出する機会は減りましたか？

新型コロナウイルスの感染拡大（2020年2月）以降の、お子さまの“不要不急の外出頻度”を教えてください



《調査概要:「withコロナ時代の子どもの遊びと教育」に関する調査》
 ・調査期間: 2020年10月19日(月)~2020年10月20日(火) ・調査方法: インターネット調査
 ・調査人数: 1,121人 ・調査対象: 幼児を持つ保護者 ・モニター提供元: ゼネラルリサーチ



新型コロナウイルスの感染拡大前はお子さまにどのような遊びをさせていましたか？（複数回答可）



新型コロナウイルスの感染拡大以降はお子さまにどのような遊びをさせていますか？（複数回答可）



《調査概要:「withコロナ時代の子どもの遊びと教育」に関する調査》
 ・調査期間: 2020年10月19日(月)~2020年10月20日(火) ・調査方法: インターネット調査
 ・調査人数: 1,121人 ・調査対象: 幼児を持つ保護者 ・モニター提供元: ゼネラルリサーチ

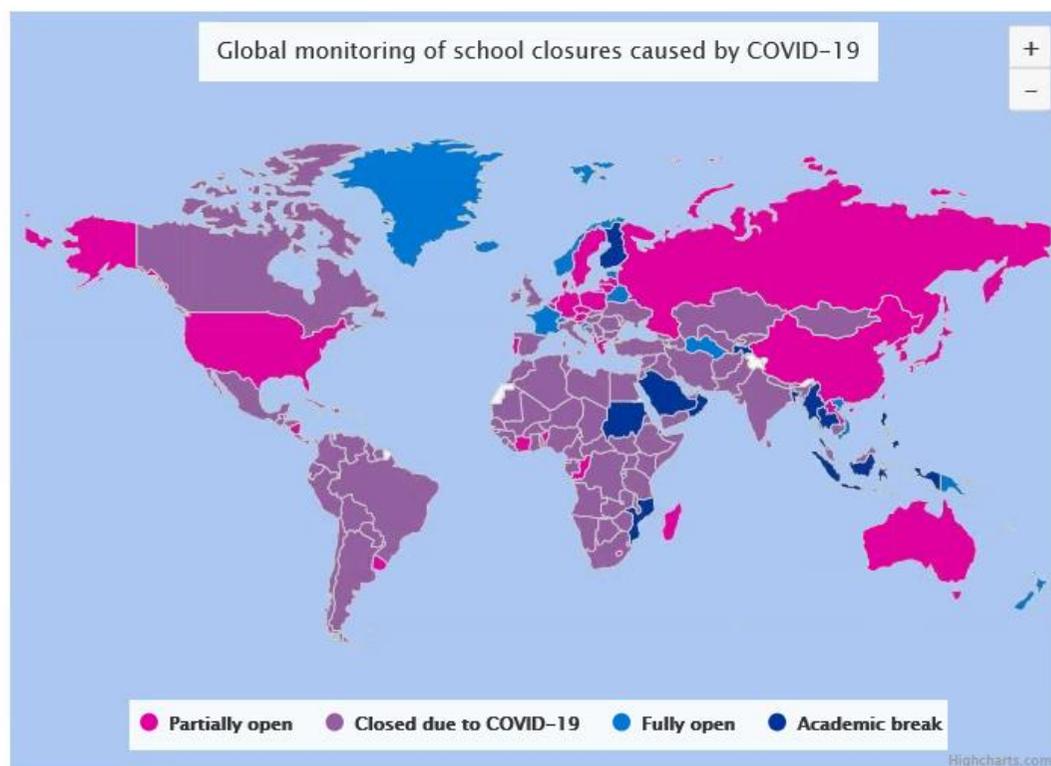


教育の充実が目指されていた中、予測困難な危機が世界を襲った



COVID-19 RESPONSE

COVID-19 Impact on Education



Visualize evolution over time.



990,324,537 affected learners
56.6% of total enrolled learners
130 country-wide closures

【出典】ユネスコHP

「学校とは」
「カリキュラムとは」
「教職員の専門性とは」
の再確認

「全人的な発達・成長を保障する役割や、人と安全・安心につながることができる居場所・セーフティネットとして身体的、精神的な健康を保障するという福祉的な役割」

(中教審特別部会)

「学問的、技術的、情緒的に、生徒と教師がつながっていることが必要」「教育システムをより力強く、強靱かつ柔軟なものにしていくことが必要」

(ユネスコ)

「オンライン学習が主要な方法になっても、教員の役割は減るわけではなくむしろ逆になる。(中略)教員は生徒の学習を促進する立場であることには変わらない。」

(OECD／ハーバード大学)

文部科学省HP「子供の学び応援サイト」： 幼児教育について



https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00456.html

臨時休業中の幼稚園等における取組事例集

幼稚園や認定こども園が臨時休業等を行った場合に実施した**幼児・保護者等に対する様々な支援の取組事例**をまとめました。**学校再開後の幼稚園運営に役立つ事例**もたくさんありますので、臨時休業中の園だけでなく教育活動を継続・再開している園においても、是非御活用ください。

幼稚園等再開後の取組事例集

幼稚園や認定こども園で実践されている、**新型コロナウイルス感染症対策を講じながら幼児を健やかに育む、様々な工夫された取組**をまとめました。臨時休業中にICTを活用するなどして取り組んだ活動を、再開後の教育活動にうまくつなげている例や保護者への支援も紹介しています。各園の参考になる事例があると思いますので、是非御活用ください。

新型コロナウイルス感染症への対応のための幼稚園等の取組事例集

幼稚園や認定こども園が臨時休業等を行った場合に実施した幼児・保護者等に対する様々な支援の取組をまとめ、各園の取組やノウハウに詳しく様々な取組事例を紹介。また学校再開後の幼稚園運営に役立つ事例もたくさんありますので、臨時休業中の園だけでなく教育活動を継続・再開している園においても、是非御活用ください。

令和2年5月13日 時点

文部科学省
初等中等教育課
幼児教育課

幼稚園等再開後の取組事例集

幼稚園や認定こども園で実践されている、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら幼児を健やかに育む、様々な工夫された取組をまとめました。臨時休業中にICTを活用するなどして取り組んだ活動を、再開後の教育活動にうまくつなげている例や保護者への支援も紹介しています。各園の参考になる事例があると思いますので、是非御活用ください。

令和2年9月7日 時点

文部科学省
初等中等教育課
幼児教育課

幼稚園等の臨時休業中の教育支援等の取組事例について

- 1 幼児が家庭でも遊びを楽しみ、満足感や充足感を味わえるような支援
- 2 一日の生活のリズムを整え、規則正しい生活を送るための支援
- 3 幼稚園が再開した際に円滑に園での生活になじめるようにする支援
- 4 園庭開放や食事の提供を通じた支援
- 5 子育てに関する悩み相談やストレス軽減、虐待防止など、保護者に対する支援
- 6 休業期間を活かした保育の質の向上のための取組
- 7 その他の取組

幼稚園等再開後の取組事例集



- 1 新型コロナウイルス感染症対策に留意した遊びの工夫
- 2 幼児の発達の特性を踏まえた衛生管理に関する工夫
- 3 幼児の思いと感染症対策に配慮した行事の工夫
- 4 幼稚園と家庭との情報共有や連携・協力の工夫
- 5 子育てに関する悩み相談やストレス軽減、虐待防止など、保護者に対する支援

衛生管理の理解

～ 「ダメ」「しなさい」
ではなく、幼児自ら ～

高浜幼稚園



幼児が楽しんで順番待ちができるように、並ぶ位置に動物の足型などをはりました。動物の足型に関心をもつ幼児がふえました。

さくら幼稚園



話声、咳、くしゃみの飛沫を幼児にもわかりやすく視覚化し、感染予防の意識を高めています。

小倉南幼稚園



うがいの時に隣の幼児にしぶきがかからないように段ボールやカラービニール袋で間仕切りをつくっています。また、アクリルスタンドでコップが接触しないように仕切りをつくっています。

※マスクに関しては、熱中症予防のため体を動かす時にははずしたり、衛生管理の観点から使用後のマスクを入れるファスナー付きビニール袋を準備したりしている例がありました。

遊びの拠点の分散

～こんなところも遊び場に～



小垣江東幼稚園

廊下や遊戯室、テラスなど遊び場を分散しました。幼児はテラスでごっこ遊びをしたり、廊下で製作活動をしたりなど、思い思いに遊んでいます。



浜脇幼稚園

今年はプール遊びにかえて、砂場からの遊びの発展として、水流しの遊びや廃材を使って手作りの船を浮かべる遊びなどにプールを活用しました。



豊洲幼稚園

遊びのコーナーを離す、換気をよくする、遊びのコーナーに衝立を置くなどの工夫をしつつ、幼児が楽しめるようにしています。



川添幼稚園

砂場に遮光ネットをはったり、園庭にテントを張ったりして、熱中症にも注意しながら遊べるようにすることで、普段より園庭の活用を増やしています。

※遊びの拠点の分散などでは、こんな工夫の事例もありました！

- ・熱中症対策や幼児が遊びやすい工夫をして、園庭を有効活用
(芝生や中庭の整備(迷路遊びや探索遊び)、グリーンカーテンのおうちや草畑を作成など)
- ・遊びのコーナーを増やしたり、スペースを広く有効活用できる工夫をして、園舎内でも密を避ける
(会議室を保育室に転用、廊下や玄関などの活用、保育室の仕切り撤去や移動可能なワゴンを使った環境の変更)
- ・遊びの拠点分散や運動不足解消のため、体を動かして遊ぶ遊具数の増

分散登園等での交流

～離れていても一緒だよ～

神戸大学附属幼稚園



隔日登園の中、別の登園日の幼児との仲間意識や遊びの共有のため、「あしたくるみんなへ」活動を実施しました。掲示板に、今日の遊びや楽しかったことなどをかきます。翌日、登園した幼児達は、興味深くそれらを見ていました。同じ遊びを始める幼児もいました。

番町幼稚園



「ばんちょうはくぶつかん」コーナーを開設し、園内の動植物の様子、幼児が調べたことや製作物などを展示しました。自粛のためしばらくぶりに登園した幼児が不在時の様子を知ることができます。

遊び方の工夫

～遊び方はいろいろ
私たちが決めたルール～

橋本幼稚園



プールを使って、シャボン玉遊びをしました。継続して遊ぶことで、液の配合を工夫したり、人が入れるほど大きくしたりといったことができました。

他学年招待のお店屋さんごっこ。教師の援助の下、レジの飛沫防止シート、電子決済、会計の順番待ちのラインなど、幼児は大人のまねも取り入れ遊びます。

小幡幼稚園



遊具の使い方を幼児と一緒に考え、各遊具にそのルールをはりました。

※遊びでは、こんな工夫の事例もありました！

- ・接触等の少ない遊びの積極的な活用（的あて遊び、けんけんぱ、かくれんぼ、しっぽとりなど）
- ・遊びのルールの変更（巧技台を使った遊びでは「手を使わないルール」を新設、ドンジャンケンの「ドン」を足で「トン」する「トンジャンケン」に変更など）
- ・大型絵本の活用、歌はテラスで外を向いて一列に並んで歌う
- ・プールを中止した場合は水遊びを充実、プールは分散実施や希望者のみ実施

休業中の取組の活用

～ お家でやったね
～ 一緒だと楽しいね ～



竹田幼稚園

休業中に実ったエンドウ豆やそら豆の収穫動画を作成しました。教師が豆の数を数えて、たくさん実ったことを伝えました。

6月の園児によるジャガイモ収穫では、動画を見た幼児から数を数えたいとの意見がでました。最初は、動画の教師のまねをしていましたが、数字の下にジャガイモを並べるなど、試行錯誤する様子が見られました。



みどり幼稚園



休業中に、ホームページでぬいぐるみの人形がブロックを使って遊ぶ様子を連載しました。

幼稚園再開後、ホームページと同じ環境にしたら、幼児は休業中に家でイメージしたことを再現していました。



山梨大学教育学部附属幼稚園

休業中に動画配信し家庭で踊っていた踊りで、まずは楽しく体ほぐしをします。外出自粛の影響による体重増加や体の動きのぎこちなさがみられたので、さらに、走る、飛ぶ、投げるなど、発達に応じた多様な動きができるようにしました。

休業中に、担任の紹介、遊び、手洗い歌や食育に関する動画を配信しました。園再開後、配信した動画をもとに、養護教諭による手洗いを含めた衛生管理や食育に関する指導を行い、幼児自ら、健康な生活に必要な生活習慣が身に付ききっかけづくりとしました。

休業中の取組の活用

～ お家でやったね
一緒だと楽しいね ～



昨年度から「おさんぽカード」を作成し、身近な自然を見つけ、季節の変化を楽しめるようにしました。登園自粛期間は、親子で探せるように家庭に2枚ずつカードを配布しました。園再開後の園外保育の際には、田んぼのオタマジャクシやカエルを進んで見つけて喜び、ツユクサやアジサイの花や葉の大きさの違いに気付くなど、自然の変化を楽しんでいました。

幼児を支える教師

～ 教師の学びを止めない
ICTの活用 ～



Zoomを活用したオンライン研修会を実施し、北海道から鹿児島まで日本全国からの参加がありました。

職員会議はビデオ会議としています。また、保育室でG Suite for Educationを使い、日々の保育計画や振り返りの記入を行っています。これにより、教職員が物理的に集まることを減らしました。

※教師は、こんな工夫もしながら幼児の学びを支えています！
・遊びの拠点の分散に伴い、教師はトランシーバーで連絡
・教師は普段マスク着用のため、保育室前などに職員紹介を掲示

直接体験を基盤とした ICT の活用により

子供達の体験が豊かになります

03 タブレットを活用してみよう

01 折り紙の折り方検索 強い紙相撲づくりに挑戦

園で折り紙を折っている子供達。折り紙の本に載っていない強い紙相撲に挑戦。どんな色が強そうに見えるか、どの折り方で強い紙相撲が作れるか、イメージに合った様々な色や形をタブレットで調べています。遊びに必要な情報を取り入れ、活用することができました。

・活動の中で見られる
幼児期・
終わりで
育ってほしい姿

- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 社会生活との関わり
- 豊かな感性と表現など



タブレットで折り方を見ている子供

02 生き物の観察 カマキリの卵はどこからでてる?

クラスで飼育していたカマキリが、卵を産み死んだ。カマキリのお腹の膨らみがなくなっている事に気付いた子供達は、タブレットに顕微鏡をつなぎ観察した。「お尻の穴から卵を産んだのではないか」等、意見を伝え合い、拡大する場所を相談する姿が見られた。その後、カマキリは子供達が埋蔵した。

・活動の中で見られる
幼児期・
終わりで
育ってほしい姿

- 自然との関わり・生命尊重
- 思考力の芽生え
- 言葉による伝え合いなど



顕微鏡につないだタブレットを見ている子供達

本リーフレットは、文部科学省の令和2年度「幼児教育の教育課程に配慮した指導力は国が実証研究」の委託業務として、学校法人七松学園が研究成果の一部をまとめたものであり、複製、転載、引用等には文部科学省の承認が必要です。

調査研究実行委員会代表・学校法人七松学園 理事長 高田秀郎
本リーフレット作成グループ：認定こども園七松幼稚園
志方智美子 安竹智美子 石本純美 大森洋子
本研究の問い合わせ先：06-6418-4732

リーフレット作成：株式会社SKS

幼児教育における



Information and
Communication
Technology

ICTの活用



主体的・対話的で
深い学びを実現し、
小学校以降の生活や
学習の基盤を育成する

- 01 子供による動画作成
～物語づくり～
- 02 子供による動画作成
～年下の園児に遊具の使い方を伝える～
- 03 タブレットを活用してみよう
01 折り紙の折り方検索
強い紙相撲づくりに挑戦
02 生き物の観察
カマキリの卵はどこから出てくる?

学校法人七松学園 認定こども園七松幼稚園

01 子供による動画作成

物語づくり

02 子供による動画作成

年下の園児に遊具の使い方を伝える



こんな物語を
つくりたい!

こんなポーズの
写真を撮ってみよう!

タブレットを使って物語を作成している様子

折り紙や色画用紙を使って即興で物語を演じることを楽しんでいた子供達。この経験を活かし、ICT機器やアプリケーションの使い方を理解しながら物語を作ります。考えたことを体で表現し、そのポーズを写真に撮ります。その写真を使って、友達と試行錯誤しながらタブレットで物語を作成しました。友達の異なる考えにも触れながら、自分達だけの物語を作りあげた達成感や表現する喜びを子供同士が共有し、自信へとつながります。

活動の中で見られる
幼児期
終わりで
育ってほしい姿

- 思考力の芽生え
- 豊かな感性と表現
- 協同性 など

・具体例・

- 線の太さや色、種類を簡単に選び使用できるため、どうしたら自分達の思い（表現したいこと）を実現できるのか試行錯誤する。
- 動画や写真を撮り、それらを使いながら自分達だけの物語を作ることで、創造性・発想力が豊かになる。
- 声の録音、写真の操作を楽しみながら話し合ううちに、子供同士が刺激し合ってイメージが膨らんでくる。
- 声の入れ方、動画の操作の仕方を工夫する事で、物語が発展していく。
- 絵を描く子供、色付けする子供と役割分担している。アニメーションの流れをしっかりと作る事で、さらに遊びが広がる。



遊具のどこを
持つのかな?

動画上映会の様子



動画の画像

幼稚園で遊ぶ中で遊具の安全な使い方を学んできた年長児達。年長児自身の実体験を活かして、年下の園児向けに遊具の安全な使い方や大切に使うことを伝える動画を作成しました。年長児達が遊具を使っている様子を撮影し、その画像に音声を入れ、動画にしていきます。動画を見た年下の園児も年長の子供達の声に耳を傾け、ルールを知り守ることができるようになります。

活動の中で見られる
幼児期
終わりで
育ってほしい姿

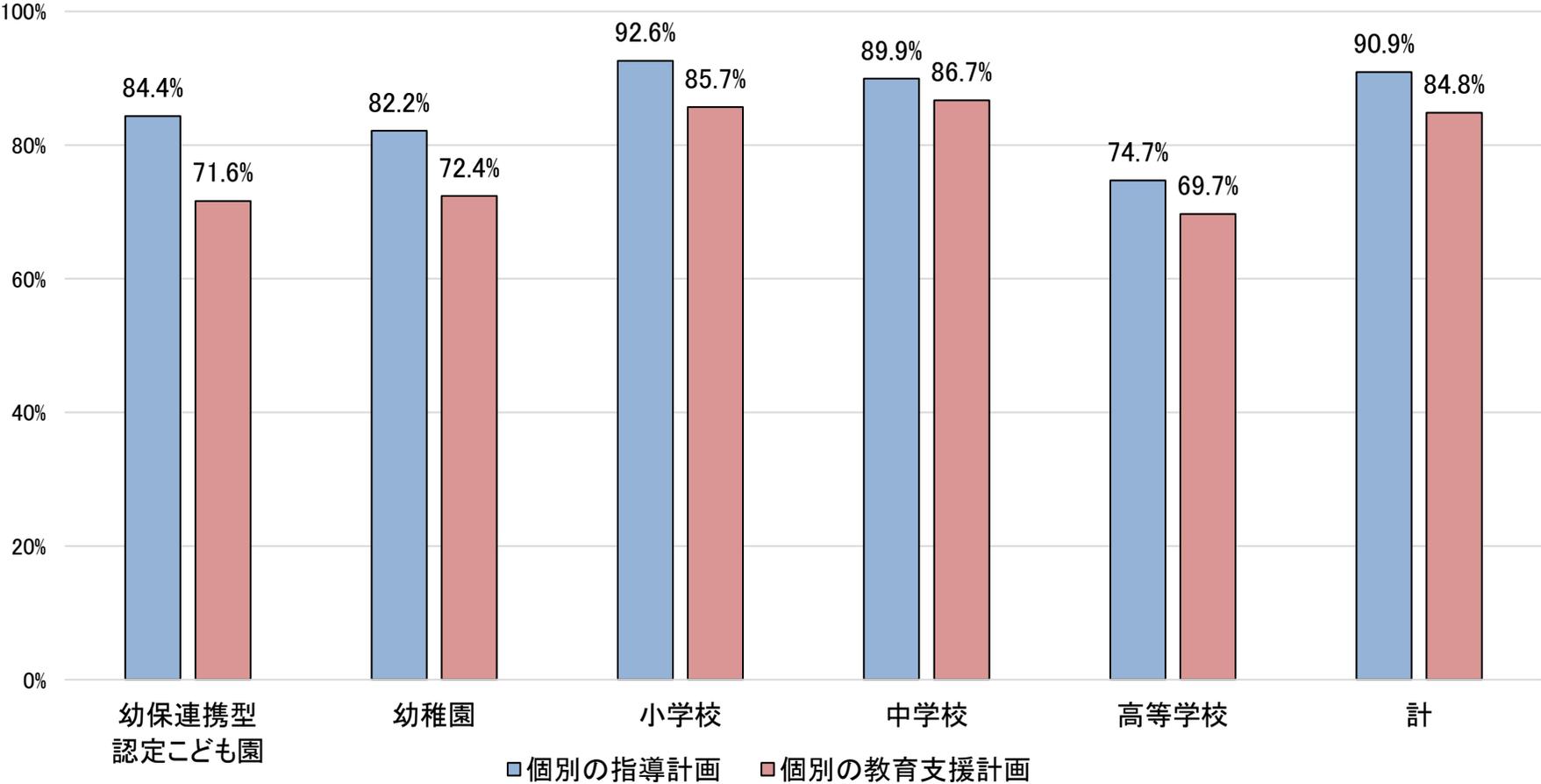
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 言葉による伝え合い など

・具体例・

- 画像を動かしたり、危ない遊びには両手で「×」を作った写真を入れたりなど、年下の園児に安全に楽しく遊具を使ってほしいと願って工夫する。
- 撮り直しや画像の切り貼りがしやすいため、作成した動画を繰り返し視聴し、年下の園児に分かりやすい動画となるように話し合う。
- ICTを用いて様々なものを撮影し、データ化することにより、自分達が表現したい素材として活用できる。
- 遊具の使い方の動画作成を通して、ルールについて考えたり、公共のものを大切に利用することを考えたりする。

個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成を必要とする幼児児童生徒

個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成を必要とする幼児児童生徒のうち、実際に計画が作成されている人数の割合（平成30年度）



※「個別の指導計画」: 幼児児童生徒一人一人の障害の状態等に応じたきめ細かな指導が行えるよう、学校における教育課程や指導計画、当該幼児児童生徒の個別の教育支援計画等を踏まえて、より具体的に幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法を盛り込んだ指導計画。

※「個別の教育支援計画」: 障害のある幼児児童生徒一人一人のニーズを正確に把握し、教育の視点から適切に対応していくという考え方の下に、福祉、医療、労働等の関係機関との連携を図りつつ、乳幼児期から学校卒業後までの長期的な視点に立って、一貫して的確な教育的支援を行うために、障害のある幼児児童生徒一人一人について作成した支援計画。

※個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成を必要とする幼児児童生徒とは、特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受けている児童生徒及び通常の学級に在籍する幼児児童生徒（通級による指導を受けている児童生徒を除く）で、学校等が個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成する必要があると判断した者の計。

※個別の指導計画、個別の教育支援計画の作成を必要とする幼児児童生徒のうち、実際に個別の指導計画、個別の教育支援計画が作成されている人数の割合。

※幼稚園には幼稚園型認定こども園、小学校には義務教育学校前期課程、中学校には義務教育学校後期課程及び中等教育学校前期課程、高等学校には中等教育学校後期課程を含める。

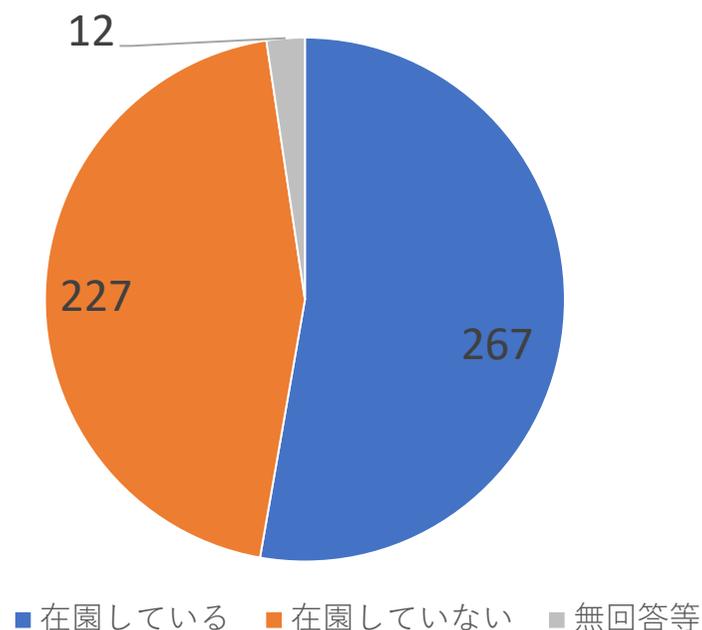
(出典) 文部科学省「平成30年度特別支援教育体制整備状況調査」

外国人幼児等の幼稚園生活への適応

外国人幼児が在籍する園数の状況

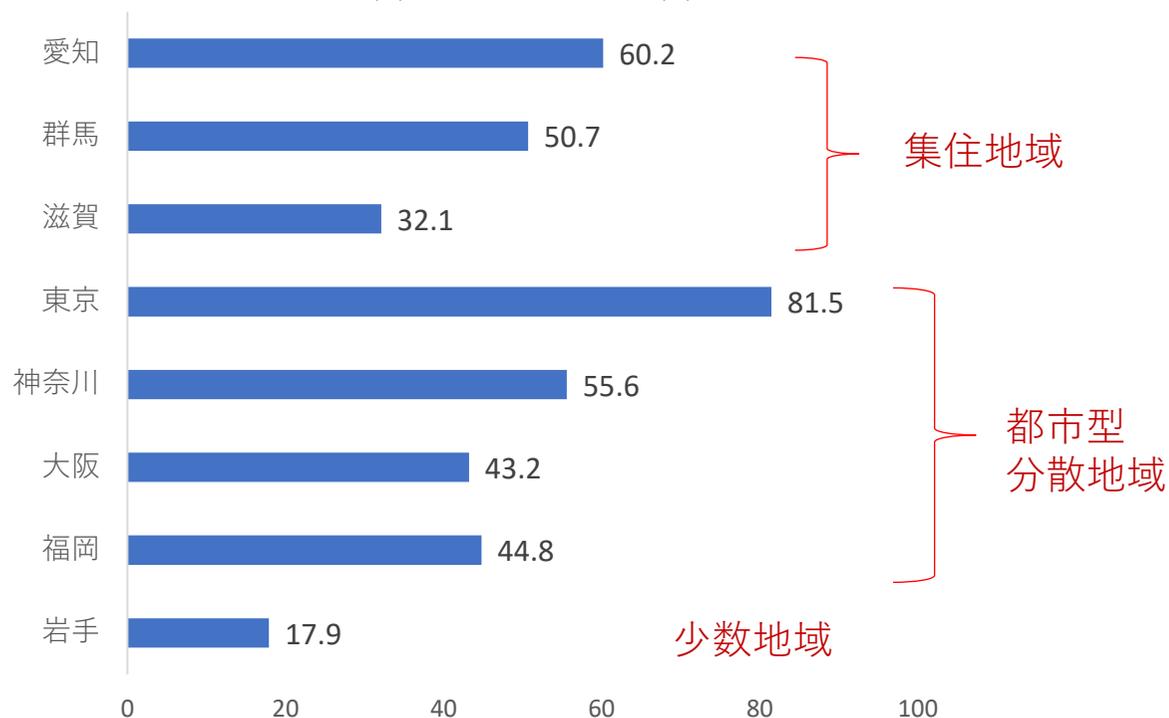
- ・ 質問紙調査の回答園は1079園のうち544園（回収率50.4%）。
- ・ そのうち、幼保連携型認定こども園を除く506園を分析対象とする。
- ・ 外国人幼児が在籍する園は、267園（有効回答494園の54%）。
- ・ 都府県別で、外国人幼児が在籍する割合が高いのは、東京都（81.5%）愛知県（60.2%）、次いで、神奈川県（55.6%）であった。

外国人幼児の在籍園数（回答園全体）



総数：506園

各地域における外国人幼児が在籍する園の割合



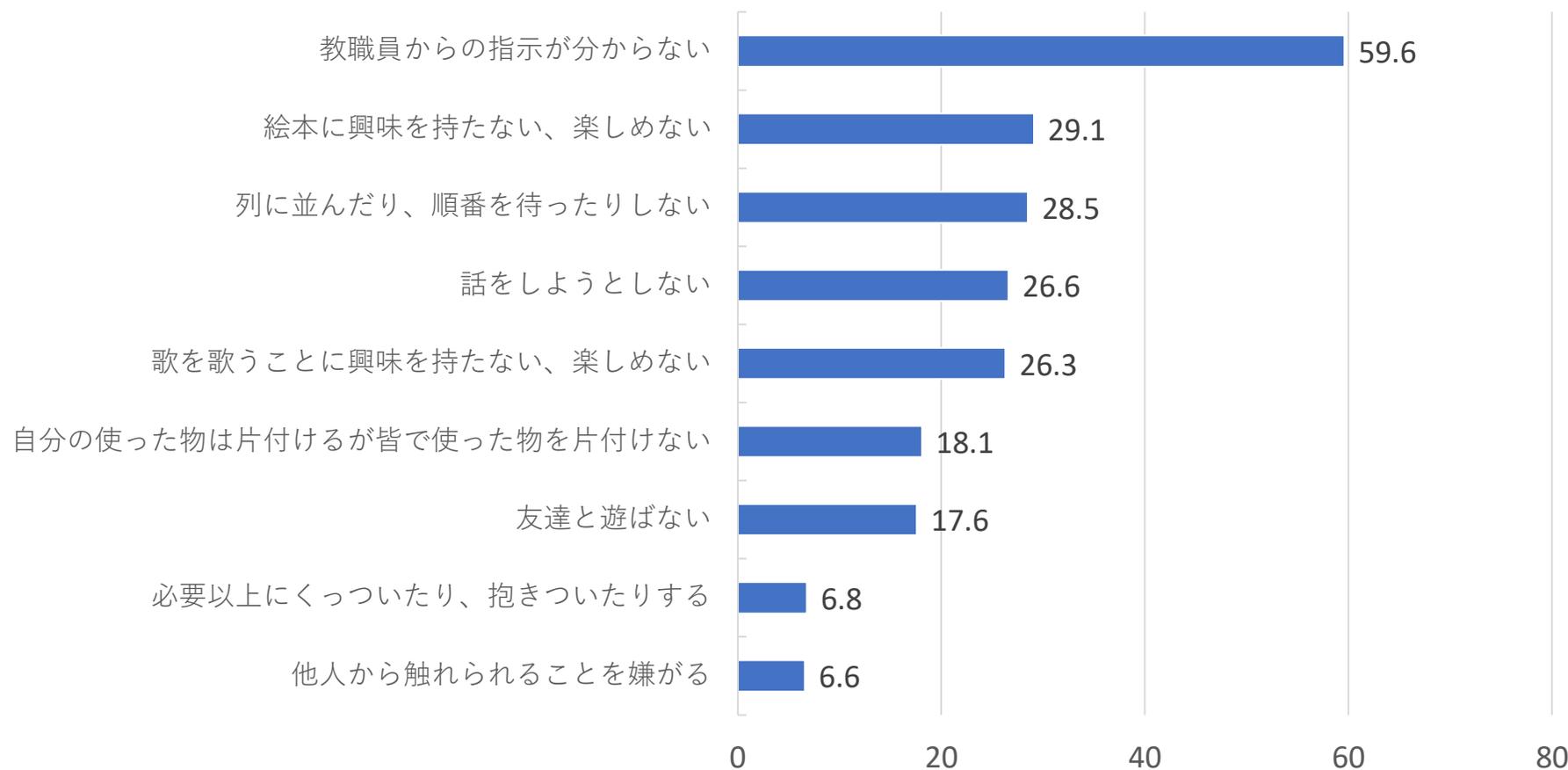
出典：平成28年度文部科学省委託事業 幼児期の教育内容等深化・充実調査研究
「幼児期における国際理解の基盤を培う教育の在り方に関する調査研究—外国籍等の幼児が在籍する幼稚園の教育上の課題と成果から—」（公益社団法人全国幼児教育研究協会）

外国人幼児の園での様子

入園当初の外国人幼児の姿

教師が最も気になる入園当初の外国人幼児の姿は、
「教職員からの指示が分からない」（59.6%）。

入園当初の気になる姿（「よく見られた」の割合）



出典：平成28年度文部科学省委託事業 幼児期の教育内容等深化・充実調査研究
「幼児期における国際理解の基盤を培う教育の在り方に関する調査研究—外国籍等の幼児が
在籍する幼稚園の教育上の課題と成果から—」（公益社団法人全国幼児教育研究協会）

2030年まであと10年、持続可能な社会の創り手の育成を目指して・・・

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



これからの幼稚園には、学校教育の始まりとして、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各幼稚園において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

持続可能な社会を創るために必要な視点

多様性（いろいろある）

相互性（かかわりあっている）

有限性（限りがある）

公平性（一人一人大切に作る）

連携性（力を合わせる）

責任性（責任を持つ）

考えたいポイント

- 幼児の生活や学びは、社会の変化や、新型コロナウイルス感染症の拡大等により、どのような影響を受けただろうか。
- 幼児の生活や学びが受けた影響を踏まえて、園ではどのような指導の工夫が期待されるだろうか。
- 持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎として、幼児教育を通じて何を培いたいだろうか。



(2) 幼児教育の質に関する認識の社会との共有

我が国のカリキュラムの質を支えるもの

1 8歳までを見通したカリキュラムの一貫性

- 幼児期から高等学校までを見通して教育課程の基準の在り方を議論
- 学びのプロセスの質に着目し、学校種や教科等を越えてカリキュラム編成の共通基盤を整理

- ・ 資質・能力の3つの柱
- ・ 主体的・対話的で深い学び
- ・ 社会に開かれた教育課程



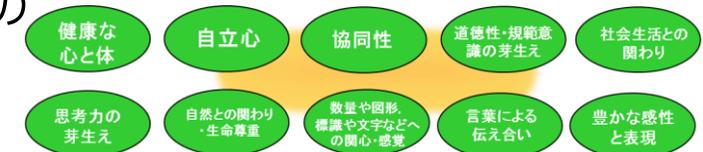
実践と理論の往還

- 園内・校内研修を通じた不断の指導改善
- 各自治体の指導主事やアドバイザーによる巡回指導、調査官による指導主事やアドバイザーの能力向上支援
- 大学等研究機関による、実践を基盤とした研究成果の普及と実践への反映

生活や学びの違いをつなぐ工夫

- 交流行事や合同研修など、子供同士や教員同士の交流・相互理解を促す取組
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有など、発達段階に応じた教育の特質について理解を促す工夫

- 一人一人の生活や学びの過程で考えられる困難さと指導上の工夫の共有



国際連携

- アジア圏における、我が国の幼児教育の特質を生かした国際貢献
- 学習指導要領等の策定過程において、OECDとも政策対話を実施
- ECECネットワークから得られた知見の政策への反映

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、

よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、

それぞれの幼稚園において、幼児期にふさわしい生活をどのように展開し、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、

社会との連携及び協働によりその実現を図っていく

という、**社会に開かれた教育課程**の実現が重要となる。

幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整え、一人一人の資質・能力を育てていくことは、教職員をはじめとする幼稚園関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から幼児や幼稚園に関わる**全ての大人**に期待される役割である。



Caring, Sharing, Daring:

**SOCIAL-EMOTIONAL
DEVELOPMENT AT
AGE FIVE**

アメリカ、イギリス、エストニアの
5歳児7000名、保護者、保育者
に対する調査結果社会会情動的
スキルの発達的重要性を述べた
報告書。

5歳児の認知能力、非認知能力
の関係の実証的研究が実施され
ている。

(OECD、2021)。

幼児期の教育はその後のアウトカムを予測することが 先行研究で国際的に示されてきている(OECD,2021)



初期読
み書き

+++

++

+

++

初期数
経験

++

++

n/a

+

自己調整

+++

++

+

++

共感や信頼を含む
向社会的スキル

+

+

+

=

問題を起こす
行動をしない
こと

++

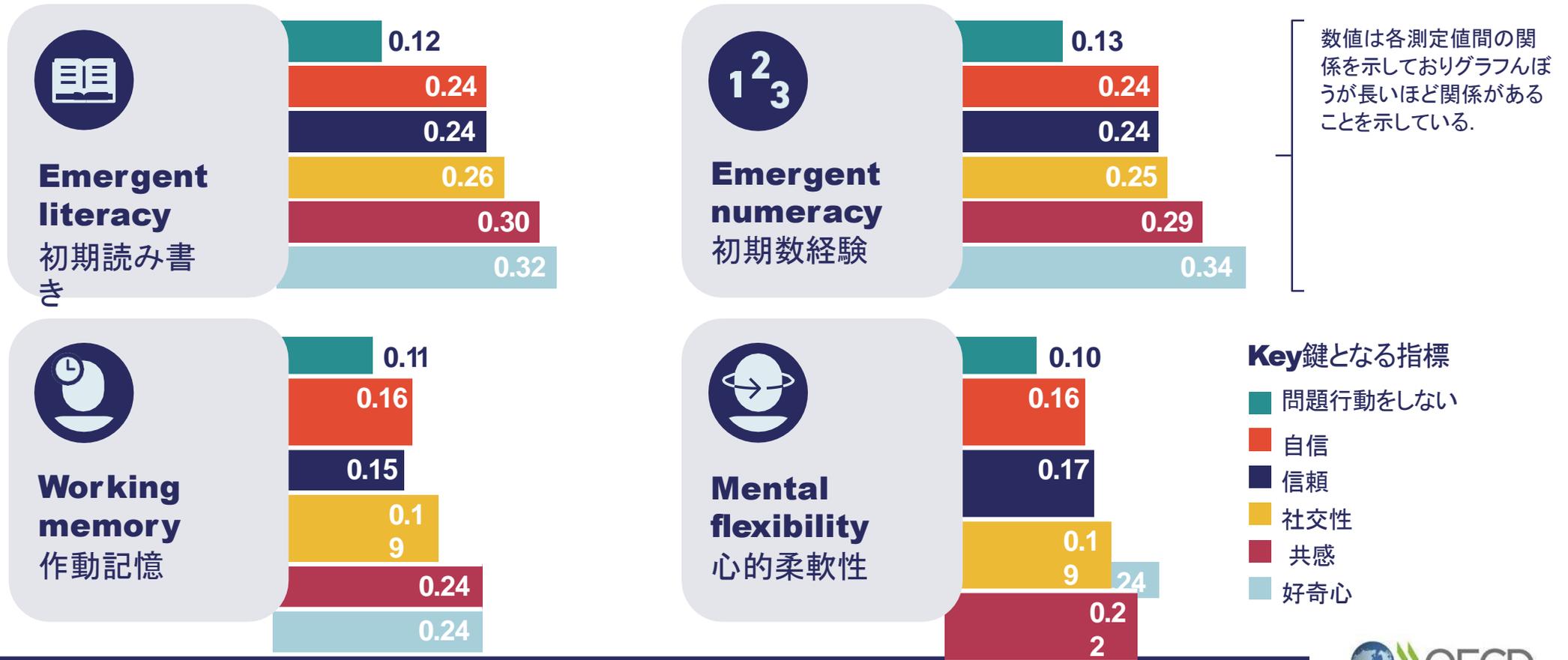
+

+

+



5歳時点において社会情動的発達は認知スキルと関係している



幼児教育に参加した子供は、より自信をもって大人と共に行動する傾向がある

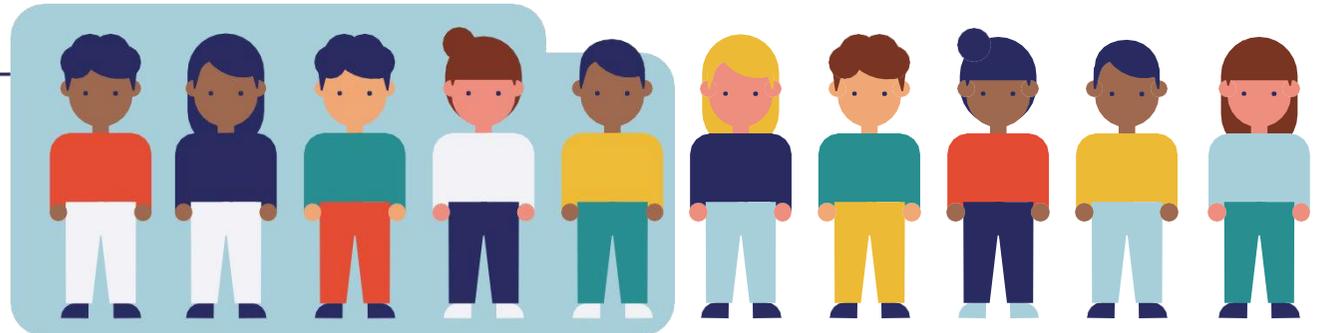
56% of children

の幼児教育に参加した子は46%の通園していない子に比べて大人と常・頻繁に大人に対しても自信をもった行動ができる。



49% of children

は通園していない子と比べて動揺した時にもそうでない42%の子にくらべて大人に対して慰めを求める傾向がある。

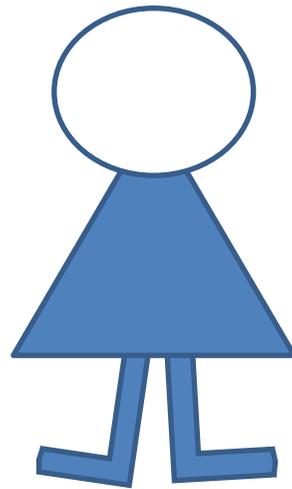


家庭

愛情としつけを通して幼児の成長の基礎となる心の基盤の形成の場

家庭の多様性

- ・ 家族構成
 - ・ 経済状況
 - ・ 心理状態
 - ・ 教育観や将来の子供への期待
 - ・ サラリーマン、自営業
 - ・ 保護者の国籍
- 等



幼児教育施設

家庭では体験できない社会・文化・自然などに触れ、保育者に支えられながら、幼児期なりの世界の豊かさに出会う場

園の質の向上

- ・ 園長のリーダーシップ
 - ・ チーム園（保育者同士の連携協力等）
 - ・ 保育者の確保、資質能力向上
- 等

地域

地域の様々な人々との交流や地域の資源（施設等）を通して豊かな体験が得られる場

※幼児教育施設を支援、連携する機能

- ・ 幼児教育推進体制
 - ・ 福祉機関との連携
- 等

遊びは幼児期にふさわしい学び

幼児期は、遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に、様々な対象と直接かかわりながら、総合的に学んでいく。

遊びを通して思考を巡らし、想像力を発揮し、自分の体を使って、また、友達と共有したり、協力したりして、様々なことを学ぶ。

*様々な斜度、素材で試す

*転がり方（摩擦・回転など）に関する発見

*友達と
かかわる

*順番にする

*意見の対
立と葛藤

*片付けを
する



*互いに観察
する

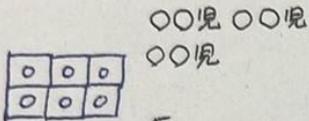
*アイデア
を出し合う

*友だちに
説明する

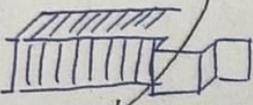
*友だちに
話す

AM

カラオケボックス



階段迷路



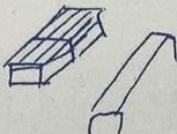
〇〇見

野球場

〇〇見
〇〇見
(〇〇見)

ワロワロ
〇〇見
〇〇見
遊び始めか?
月曜日だから?

ソーダ



たろこ作り
おしゃべり
〇〇見 おしゃべりして楽しんで
作ることに楽しさ招待状で配る

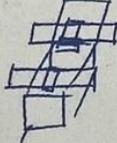
〇〇見 } おしゃべり
〇〇見 } 楽器をいれて
作ることに楽しんで
見ってもらうことが
楽しい! 嬉しい!

田舎カウシ

〇〇見 雨が降ってほしい!
〇〇見 ← さそろ

父の目
プレゼント

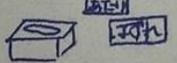
製作
ヒコーキ作り



段ボールピカピカテープ

〇〇見一人でもくもくと
懸命に作る
「やった! 飛び出して」

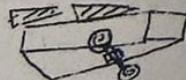
くわんてん



影響
すこぶ
〇〇見 ↑
〇〇見 2人で作る

「くわんてん」
どこにいけるか
「どこにする?」
と場所を決めるもの
すどにあきていめてしまう

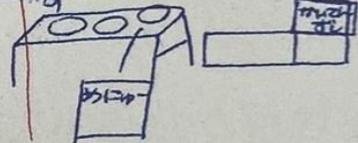
どうしたらいいかな?
← 一緒に考えて
いきにい
明日
作るよ
約束



新聞紙
いいものある!
これどう? と提案して作るか
通し棒見つけて、はめ動かす

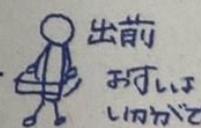
お寿司屋さん

〇〇見 「先生やろよ!」と誘いにくる
どこにする? ここでお店開く?
と聞いてはからさきをさと持
てきて場所をつくり始める
お店を開いてやれとやるより
お寿司を作るのが楽しい様子
お金の仲間 お寿司を作るのが楽しい様子
意気盛んな様子



〇〇見 後から入り、〇〇見と一緒に
作ることに楽しむ。
やれとやるより、看板を見やすくて積
木を高く積み上げてはこる人
ついたらする

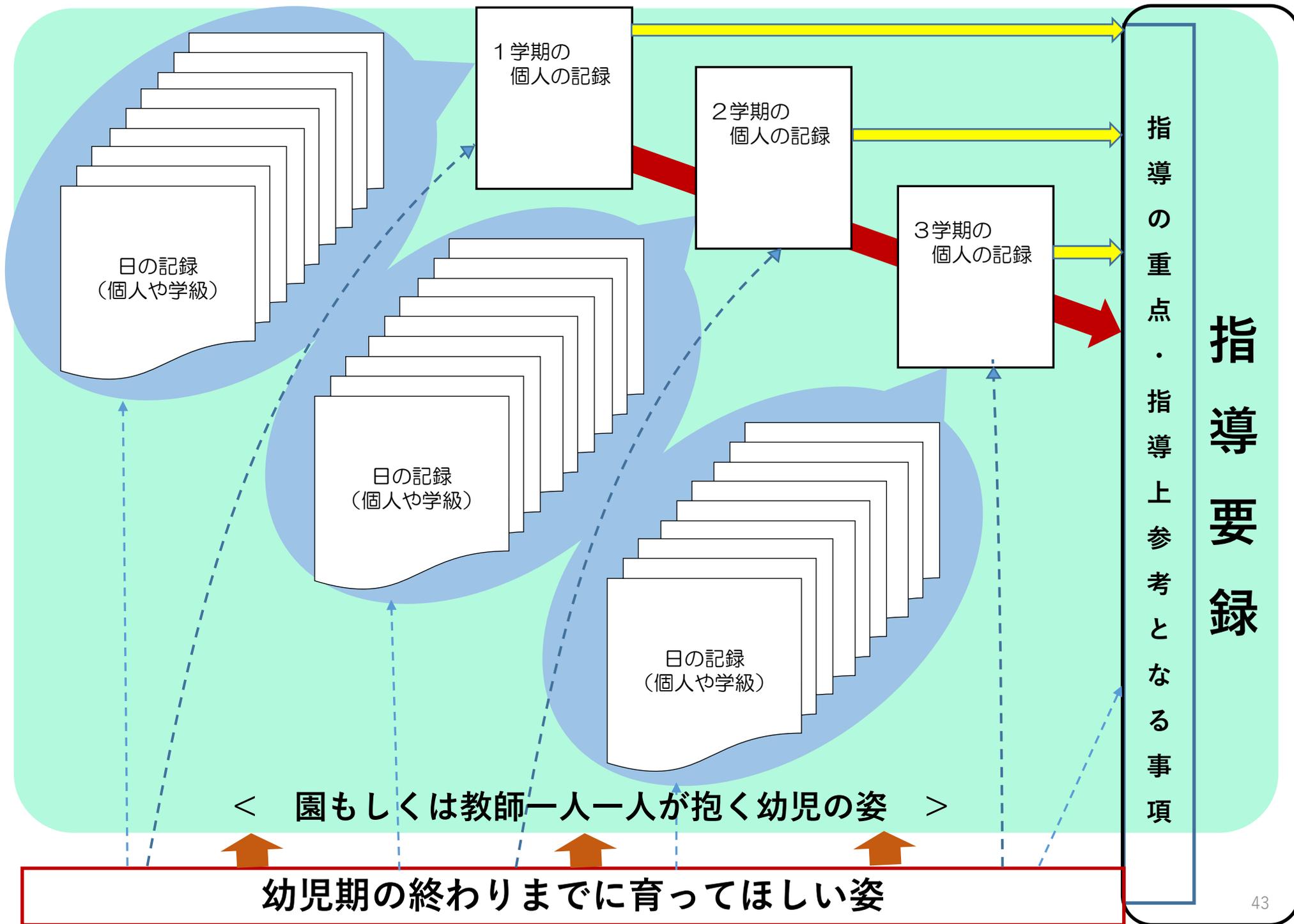
〇〇見 2人の所へお金をもって...
3人ではいるものの「夕暮らに時に渡ろう!」
お金の心(人で やれとやる)を楽しみに遊ぼう!
楽しんでる様子 あなごや玉子ばし新にはメニュー
も作る



出前
おしゃべり
いながら? 上手く
友達と共通に
「おしゃべり」
いいよ

* すこぶのやり方は、根元は
遊んで!

< 参考 > 保育の記録から指導要録へ (イメージ図)



色水遊び

3歳



- ・ 保育者が準備した絵具等
- ・ 色の種類は1～2色
- ・ 単色の色の美しさを楽しむ

など

5歳



- ・ 植物をすりつぶすなど、自分達で色水の材料づくり
- ・ 色の濃淡の調整
- ・ 色を様々に混合
- ・ 自分のつくりたい色を追求

など

色水遊びにおける発達段階に応じた保育者の関わりの例

3歳



【発達段階を踏まえた幼児の姿の例】

- 面白そうと感じたことはすぐにやってみる。
- 場を共有しながらも幼児一人一人が独自に遊ぶ。
- 保育者が準備したものとの関わりが中心となる。
- 感動したり、興味や関心をもつと、ものに関わりたいと思う。

【保育者の関わりの例】

- 幼児が色の美しさに感動できるようにする。
 - ・多数の色があると混ぜてしまっても黒っぽくなるので色数を精選
 - ・カップは透明なものを、人数分準備
 - ・「きれいだね」と保育者が共感し、幼児の感動、興味や関心を深化

5歳



【発達段階を踏まえた幼児の姿の例】

- 遊びの中で考えたり試したりして実現しようとする。
- 過去の経験を生かし、必要な材料や用具を自分で選んだり探したりする。
- 友達の言動に刺激を受け、新たな課題の発見、新しい方法の試行をする。

【保育者の関わりの例】

- 幼児が自ら気付くのを待つのか、気付くヒント（声掛け／道具等をさりげなく見せる等）を与えるのか、状況に応じて対応
- 微妙な色が追及できるように、スポイト等を少し離れたところに準備（幼児が自分で見つけられるように）
- 興味や関心が広がるように、色や道具の種類は豊富に準備。ただし、他の幼児と一緒に活動できるように数は少なく。
- 「どうしたらいいかな」など幼児自身に考えさせるような保育者の声掛け

砂場遊び

3歳



- カップケーキに見立てて、砂場の砂をカップに入れて遊ぶ
- 没頭、集中して遊ぶ
- 繰り返し遊ぶ中で、砂の性質を知る

など

5歳



- 道具を使って水路づくり
- 穴の深さの調節
(高→低に流れる水の性質)
- 試行錯誤 (水の流れ方等)
- 目的実現に向けて協力
(穴掘りと水運搬の役割分担、
穴の深さの意見交換 等)
など

物語を楽しむ

3歳、4歳



- ・読み聞かせを通して、絵本の世界を楽しむ
- ・劇遊びでは、役になりきり、体で表現する
- ・発表会で物語を見る人に伝える楽しさ

など

5歳



- ・自分達で撮った写真を使って物語づくり
 - ・自分達だけの物語を考える
 - ・考えたことを体で表現して写真撮影
 - ・音の入れ方や画面操作を工夫
- など

(1) 年長児の園外保育 - 対話で紡ぐ行事へ -

Before



決められた場所（広島駅）に毎年行く園外保育

- ・行きたくない子はいないのか？
- ・主体的・対話的に取り組めるには？
- ・もっと学びが深まる取り組みはできないか？
- ・10の姿を意識した活動は？

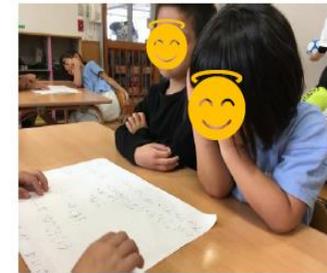


保育者が考える行事から、子どもが主体的に考え取

After 自分たちで行き先を考え「自分たちで創る」行事へ



全員でのミーティング



グループミーティング



プレゼン



当日の動きの話し合い

一日で行ける場所、みんなで楽しめる場所、1カ所だけという条件で、子どもたちが自分たちで考える。
ミーティング・グループワーク・プレゼンなどを経て、自分の思いと人の思いの違いに葛藤しながら場所を決めていきます。

- 各幼稚園においては、6に示す全体的な計画にも留意しながら、
「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ教育課程を編成すること、
- 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、
- 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと
- などを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各幼稚園の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「**カリキュラム・マネジメント**」という。）に努めるものとする。

学校のカリキュラム・マネジメント上の
課題は何ですか？

それをどのように解決していきますか？

前文

第1章 総則

第1 幼稚園教育の基本

- 1 人格形成の基礎を培うこと
- 2 環境を通して行う教育
- 3 幼稚園教育の基本に関連して重視する事項
 - (1) 幼児期にふさわしい生活の展開
 - (2) 遊びを通しての総合的な指導
 - (3) 一人一人の発達の特性に応じた指導
- 3 計画的な環境の構成
- 4 教師の役割

第2 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

第3 教育課程の役割と編成等

- 1 教育課程の役割
- 2 各幼稚園の教育目標と教育課程の編成
- 3 教育課程の編成上の基本事項
 - (1) 教育課程の編成
 - (2) 教育週数
 - (3) 教育時間
- 4 教育課程の編成上の留意事項
 - (1) 入園から修了までの生活
 - (2) 入園当初の配慮
 - (3) 安全上の配慮
- 5 小学校教育との接続に当たっての留意事項
 - (1) 小学校以降の生活や学習の基盤の育成
 - (2) 小学校教育との接続
- 6 全体的な計画の作成

第4 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価

- 1 指導計画の考え方
- 2 指導計画の作成上の基本的事項
 - (1) 発達の理解
 - (2) 具体的なねらいや内容の設定
 - (3) 環境の構成
 - (4) 活動の展開と教師の援助
 - (5) 評価を生かした指導計画の改善
- 3 指導計画の作成上の留意事項
 - (1) 長期の指導計画と短期の指導計画
 - (2) 体験の多様性と関連性
 - (3) 言語活動の充実
 - (4) 見通しや振り返りの工夫
 - (5) 行事の指導
 - (6) 情報機器の活用
 - (7) 教師の役割
 - (8) 幼稚園全体の教師による協力体制
- 4 幼児理解に基づいた評価の実施
 - (1) 評価の実施
 - (2) 評価の妥当性や信頼性の確保

第5 特別な配慮を必要とする幼児への指導

- 1 障害のある幼児などへの指導
- 2 海外から帰国した幼児等の幼稚園生活への適応

第6 幼稚園運営上の留意事項

- 1 教育課程の改善と学校評価等
- 2 家庭や地域社会との連携
- 3 学校間の交流や障害のある幼児との活動を共にする機会

第7 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動など

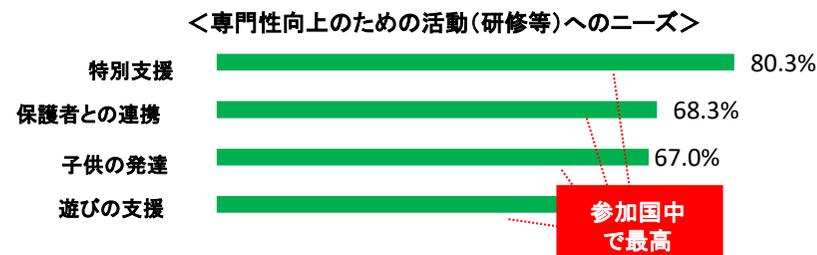
- 1 教育課程に係る教育時間の終了後等に行う教育活動
- 2 子育ての支援

OECD国際幼児教育・保育従事者調査

- ・ 幼児教育・保育施設の保育者及び園長を対象に、研修、園での実践、勤務環境、管理運営等に関する国際比較可能なデータを収集した初めての国際調査。日本、ドイツ、韓国、ノルウェーなどOECD加盟9か国が参加。
- ・ 日本では2018年10月～11月に幼稚園・保育所・認定こども園約220園で3～5歳児の保育を担当する保育者（幼稚園教諭、保育士等）及び園長あわせて約1,800人を対象に質問紙調査を実施。
- ・ 第1巻は、2019年10月に公表。

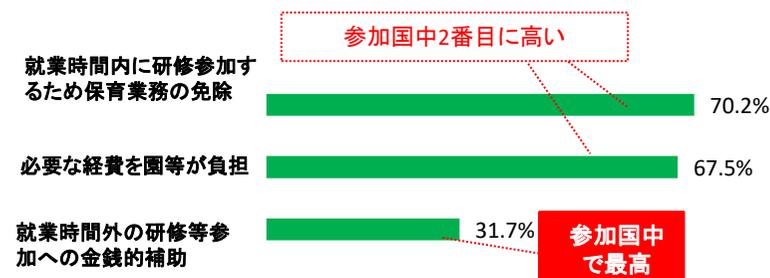
保育者の専門性向上への意欲が高く、研修への参加率も高い。

- 日本の保育者は専門性向上のための活動（研修等）へのニーズが高く、専門性向上への意欲が高い。特に特別支援等については、参加9か国中で最も高い。
- 過去12か月の間に何らかの専門性向上のための活動（研修等）に参加した日本の保育者の割合は85.3%と高い。



保育者の研修への参加に対する園による支援が充実している。

- 過去12か月の間の研修等について、「研修等に参加するため、保育業務が免除された」日本の保育者は70.2%、「経費を園等が負担した」日本の保育者は67.5%であり、いずれも参加国中2番目に高い。
- 過去12か月の間の研修等について、「就業時間外の研修等に対して金銭的な補助があった」保育者の割合は日本が参加国中で最も高い。



保育者は社会性や情緒的な発達に関わる実践を重視している。

- 日本の保育の実践については、数に関する発達を促す等の実践と比して「子供たちがグループの中で様々な遊びができるような環境を整える」、「保育者は、子供がどんなことが悲しいのか話すことを手助けする」等の実践の割合が高い等、社会性や情緒的な発達に関わる実践がよく行われているといった特徴がある。

考えたいポイント

- 見えにくいと言われる幼児教育の意義や価値が、どの程度地域に理解されているだろうか。遊びを通じた学びがなぜ重要なのか、各園の先生方がどのような環境の構成や関わり方の工夫を行っているか等が、地域の他の学校種や、家庭に伝わっているだろうか。
- 「社会に開かれた幼児教育カリキュラム」を実現するため、どのような課題の解決が必要だろうか。各園の強みを生かしながら、どのように解決していけばよいだろうか。

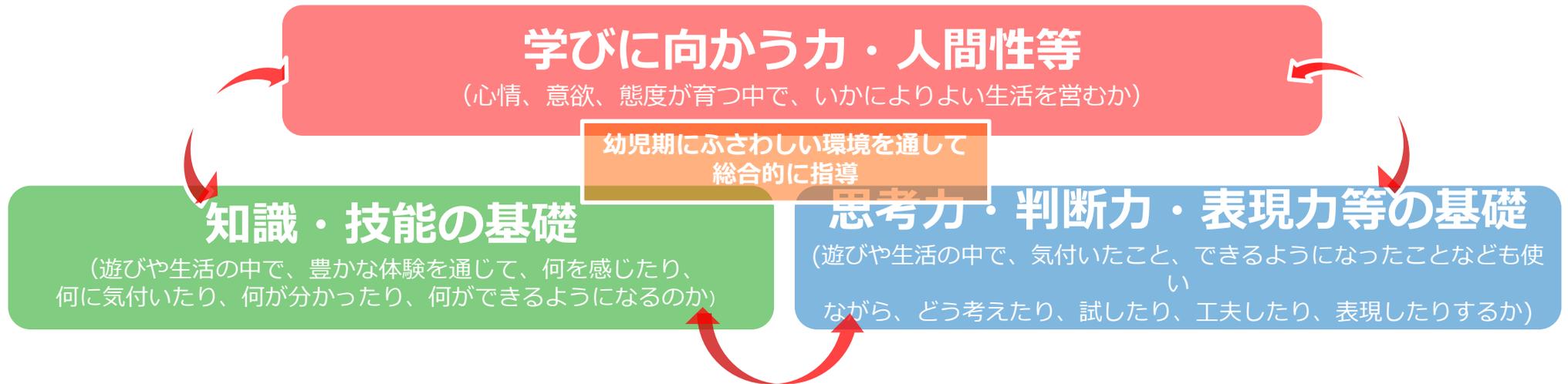


(3) 小学校以降も見通した学びの連続性の確保

幼児教育・保育の質を、施設類型を問わずに保障するために

教育課程や保育計画を通じ、生涯にわたる生きる力の基礎が一人一人の幼児に育まれるよう、幼児教育や保育の内容に関し、次のような点について施設類型を問わず共通に告示※している。

○次に掲げる資質・能力の基礎を一体的に育むことを明示。



※幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について、合同の検討会議等を通じて整合性を図り告示しているところ。

社会に開かれた教育課程

資質・能力の三つの柱

主体的・対話的で深い学び

見方・考え方

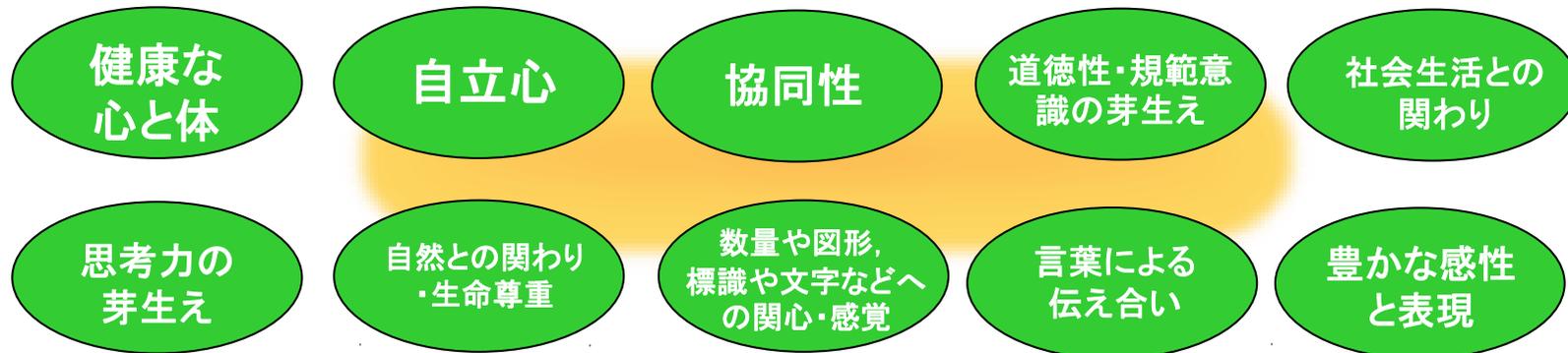
カリキュラム・マネジメント

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

情報活用能力の育成の充実

幼児教育・保育の質を、施設類型を問わずに保障するために

- 小学校以上の教職員との連携や、地域、家庭等との連携の手がかりとするため、**幼児期の終わりまでに育ってほしい具体的な姿を明確化。**



- なお、小学校学習指導要領においても、幼児期の学びから小学校教育に円滑に移行できるよう、**各教科等の指導において、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮することが求められている。**

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1)健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2)自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3)協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4)道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5)社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にす気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

幼保小連携の成果と課題

[成果]

- ・ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3要領・指針の整合性確保
- ・ 幼保小接続期の連携の手がかりとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」策定
- ・ 小学校との連携の取組を行っている園が約9割に上るなど、取組が進展

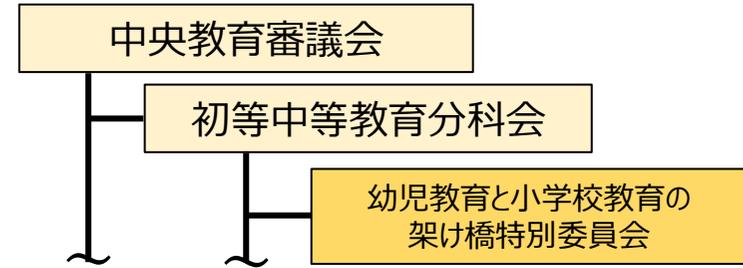
[課題]

- ・ 幼稚園・保育所・認定こども園の7～9割が小学校との連携に課題意識
- ・ 半数以上の園が行事の交流等にとどまり、学びの連続性を意識したカリキュラムの編成・実施が行われていない
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が誤解され、連携の手がかりとして十分機能していない
- ・ スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムがそれぞれで策定され、理念が共通していない
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」だけでは、具体的なカリキュラムの工夫や教育方法の改善方法がわからない
- ・ 小学校側の取組が、学校探検等にとどまるケースが多い
- ・ 施設類型の違いを越えた共通性が見えにくい
- ・ 教育の質に関するデータに基づき幼児期・接続期の教育の質の保障を図っていくための基盤が弱い

→**接続期の学びや生活の基盤の育成に影響**

幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会について

- 幼児教育の質的向上及び小学校との円滑な接続について専門的な調査審議を行うため、初等中等教育分科会の下に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」を設置（令和3年7月8日初等中等教育分科会決定）
- 具体的には、以下の事項について検討
 1. 生活・学習基盤を全ての5歳児に保障するための方策
 2. 各地域において幼児教育を着実に推進するための体制整備
 3. 保護者や地域の教育力を引き出すための方策、保育人材の資質能力の向上といった幼児教育の質的向上及び小学校教育との円滑な接続を図る上で必要な事項



【委員一覧】※敬称略・五十音順

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 秋田 喜代美 学習院大学文学部教授、東京大学名誉教授 • 荒瀬 克己 独立行政法人教職員支援機構理事長 • 石戸 奈々子 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授、CANVAS 代表 • 榎本 和生 東京大学大学院理学系研究科教授 • 大竹 文雄 大阪大学感染症総合教育研究拠点特任教授 • 岡林 律子 高知県教育委員会事務局幼保支援課専門企画員 • オチャンテ村井ロサメルセデス 桃山学院教育大学人間教育学部人間教育学科准教授 • 神長 美津子 大阪総合保育大学児童保育学部特任教授 • 久保山 茂樹 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
インクルーシブ教育システム推進センター上席総括研究員(兼)センター長 • 黒木 定藏 宮崎県児湯郡西米良村長 • 齋藤 孝 明治大学文学部教授 • 鈴木 みゆき 國學院大學人間開発学部教授 • 曾木 書代 社会福祉法人龍美 陽だまりの丘保育園長 • 田村 学 國學院大學人間開発学部教授 • 中井澤 卓哉 筑波大学教育学類4年、(一社)ひとと代表理事 • 中山 昌樹 学校法人中山学園理事長 • 二宮 徹 NHK解説主幹 • 平川 理恵 広島県教育委員会教育長 • 藤迫 稔 大阪府箕面市教育委員会教育長 • 堀田 龍也 東北大学大学院情報科学研究科教授、東京学芸大学大学院教育学研究科教授 | <ul style="list-style-type: none"> • 水野 達朗 大阪府大東市教育委員会教育長 • 溝上 慎一 学校法人桐蔭学園理事長、桐蔭横浜大学学長・教授 • 宮下 友美恵 学校法人静岡豊田学園 静岡豊田幼稚園長 • 無藤 隆 白梅学園大学名誉教授 • 村田 伊津子 岐阜市子ども・若者総合支援センター“E-ルギふ”所長 • 吉田 信解 埼玉県本庄市長 • 渡邊 一利 公益財団法人笹川スポーツ財団理事長 • 渡邊 英則 学校法人渡辺学園 認定こども園ゆうゆうのもり幼保園長、港北幼稚園長 |
|--|--|

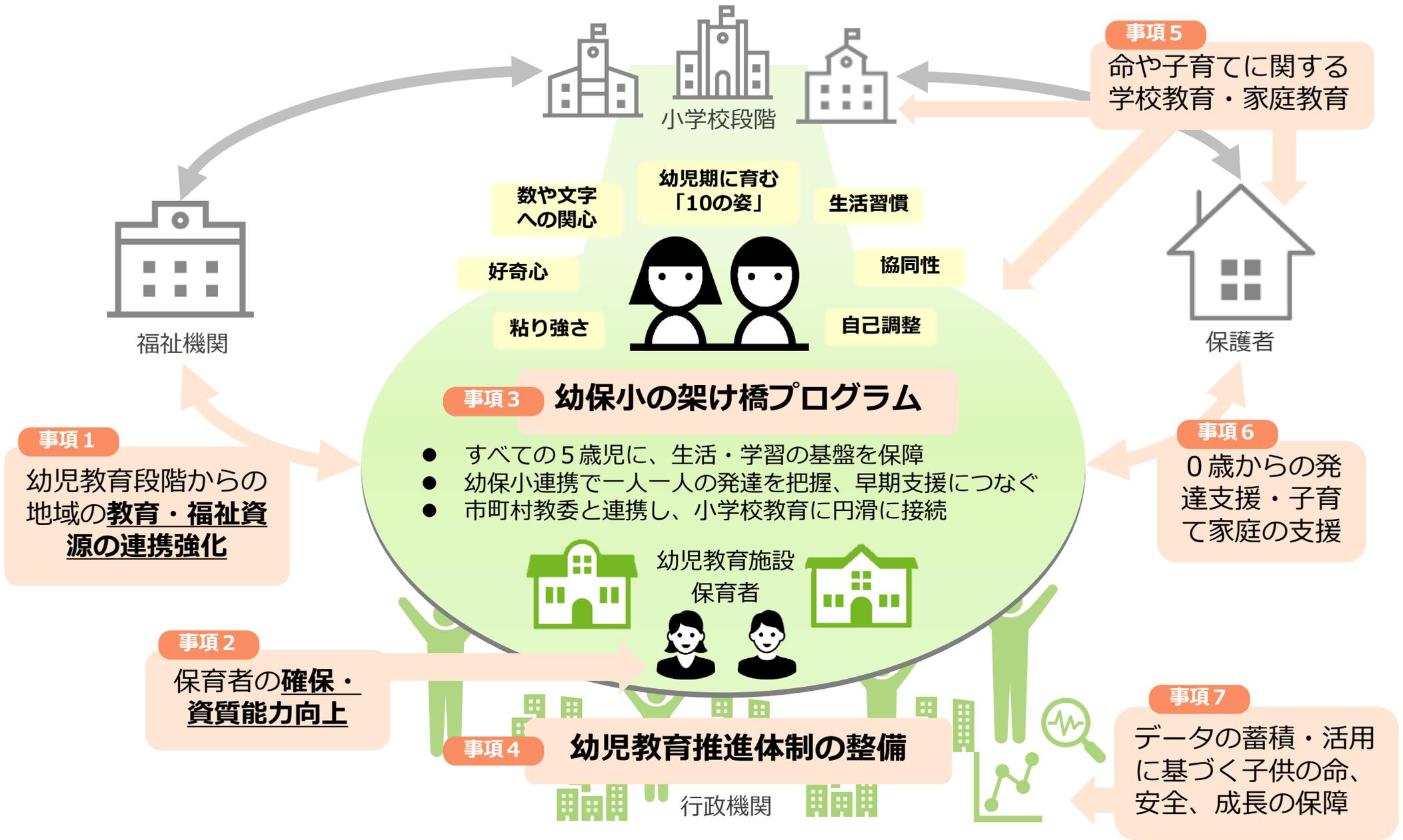
- 【オブザーバー】
- 内閣府子ども・子育て本部参事官付（認定こども園担当）
 - 厚生労働省子ども家庭局保育課
 - 全国国公立幼稚園・こども園長会
 - 全日本私立幼稚園連合会
 - 公益社団法人全国幼児教育研究協会
 - 全国連合小学校長会
 - 日本私立小学校連合会
 - 社会福祉法人日本保育協会
 - 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育協議会
 - 公益社団法人全国私立保育連盟
 - 特定非営利活動法人全国認定こども園協会
 - 一般社団法人全国認定こども園連絡協議会
 - 認定こども園連盟

目指す方向性（たたき台）

- (1)「社会に開かれた幼児教育カリキュラム」の実現に向けた、
幼児教育の質に関する認識の共有
- (2)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と各園や地域の
創意工夫を生かした幼保小の架け橋プログラムの開発・実践
- (3)全ての幼児のウェルビーイングを高めるカリキュラムの実現
- (4)幼児教育推進体制等の全国展開による、幼児教育の
質の保障と専門性の向上
- (5)地域における幼児教育施設の役割の認識と
関係機関との連携・協働等

幼児教育スタートプランのイメージ

以下の事項を、幼児期の教育に関する基本的な計画として位置付け、一体的に実行することで、子供の未来への架け橋となる社会システムを構築。



市町村等による一体的な幼児教育推進体制の整備、アドバイザー派遣で保育現場を支える

学校を核とした地域力強化プラン

学校や地域が抱える社会的課題の解決を目指すとともに、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた基盤として、学校と地域が連携・協働し、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えていくためには、「コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）」と「地域学校協働活動」の一体的な推進が必要。

幼児教育施設においても、幼児教育推進体制の整備を推進し、地域の小学校等とも連携しながら、コミュニティ・スクールの導入や、幼児教育施設において地域学校協働活動の充実を進めていくことが重要。

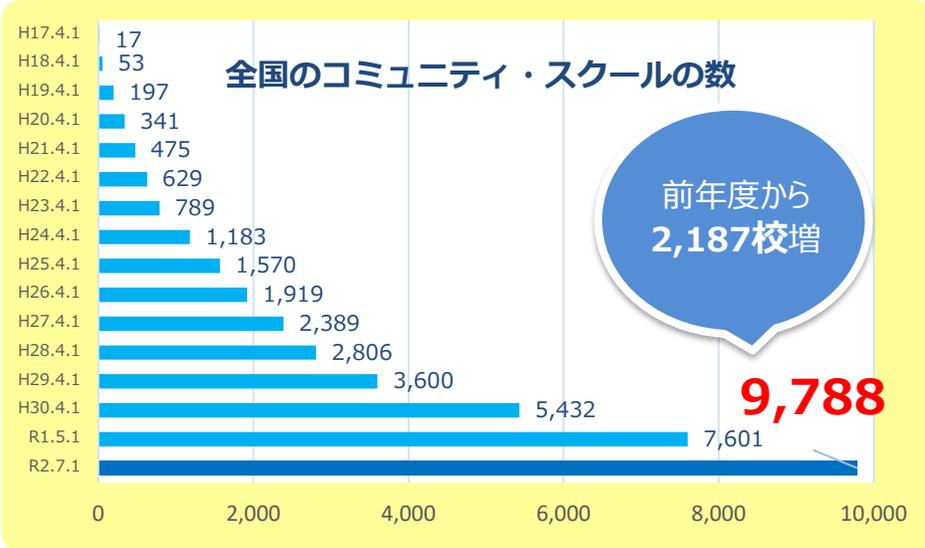
コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入状況 ー学校数ー

学校運営協議会を設置している学校数

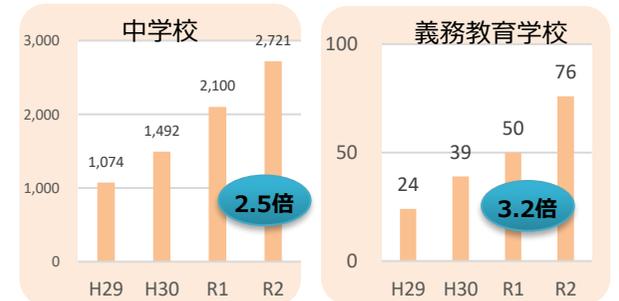
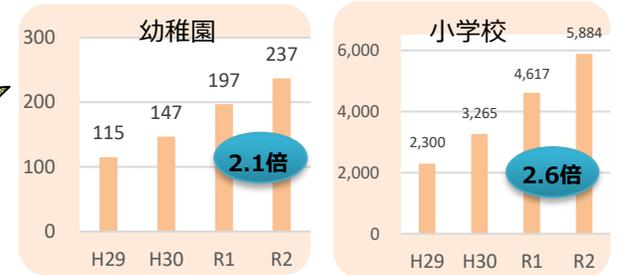
46都道府県内 **9,788校**（令和2年7月1日現在）

（幼稚園237、小学校5,884、中学校2,721、義務教育学校76、高等学校668、中等教育学校3、特別支援学校199）

全国の学校のうち、**27.2%**がコミュニティ・スクールを導入



校種別設置状況

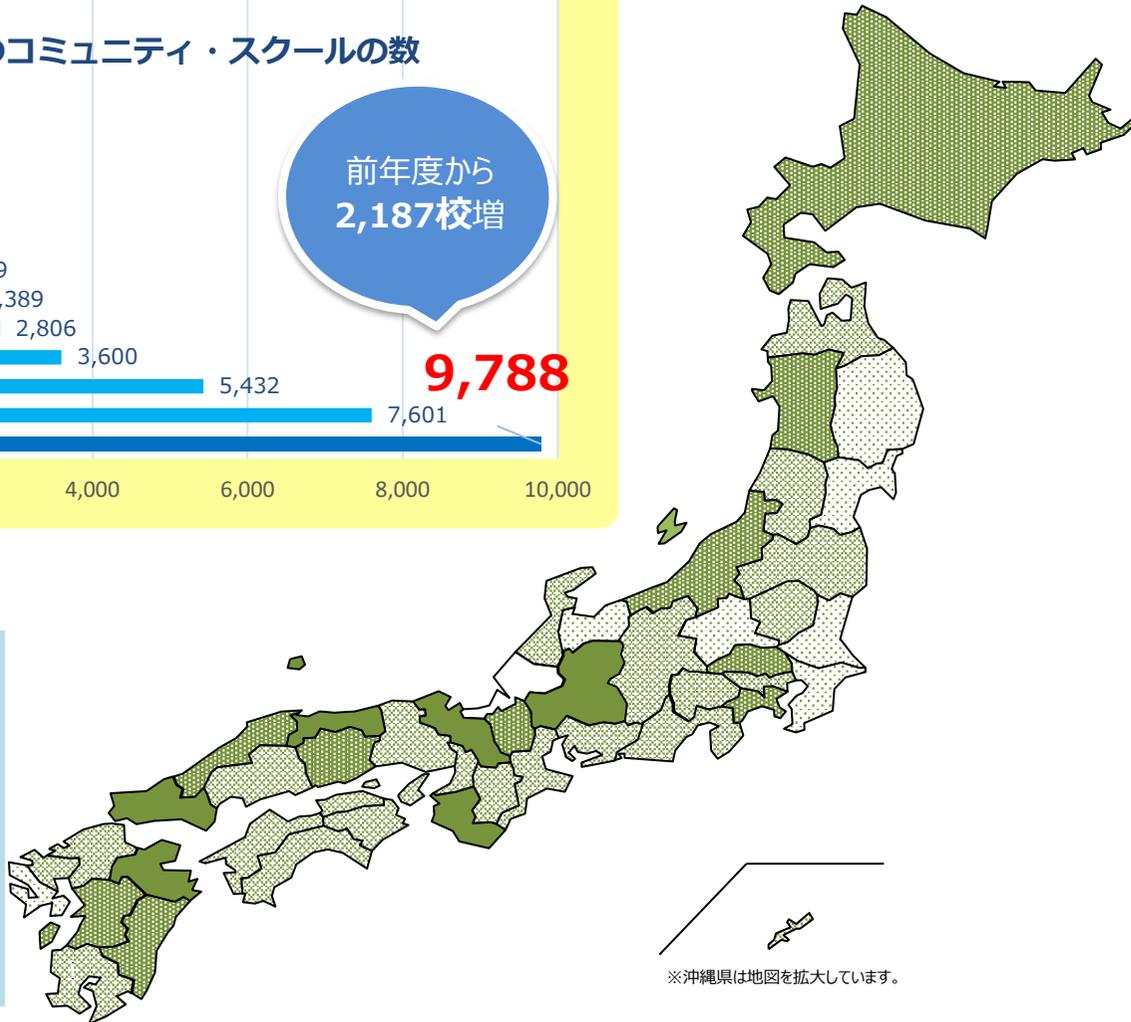


※中等教育学校を含む

コミュニティ・スクールを導入している学校の割合

【設置率】※

- 50%以上 ... ●
- 30%以上 ... ●
- 10%以上 ... ●
- 10%未満 ... ○
- 設置なし ... ○



※沖縄県は地図を拡大しています。

※母数は令和2年7月1日調査で各教育委員会から報告があった学校数。
 ※ここでいうコミュニティ・スクールは、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第47条の5に規定された学校運営協議会が置かれた学校を指す。

地域と学校の協働体制の概要

学校 (コミュニティ・スクール)

教職員



校長



教職員



学校運営協議会

委員：
保護者
地域学校協働活動推進員
地域住民 など



全公立学校で努力義務化

学校運営・その運営に必要な支援に関する協議等

学校運営協議会の主な役割

(地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の5)

- 教育委員会が、所管の学校ごとに学校運営協議会を設置
- ✓ 校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること
 - ✓ 学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べることができること
 - ✓ 教職員の任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べることができること
- ※小中一貫型小・中学校など、複数校に一つの協議会を置くことも可能

地域学校協働活動推進員 地域と学校をつなぐコーディネーターの役割

- ・地域住民と学校との情報共有
 - ・地域住民等への助言 等
- 教育委員会が委嘱することができる
(社会教育法第9条の7)

想定される対象者：

- ・地域コーディネーターやその経験者
- ・PTA関係者・経験者
- ・退職教職員
- ・自治会・青年会等関係者
- ・公民館等社会教育施設関係者 等



地域学校協働活動 地域と学校が相互にパートナーとして、連携・協働して行う様々な活動

(社会教育法第5条第2項 ほか)

○協働活動

地域人材育成、郷土学習、協働防災訓練、学習・部活動等支援、花壇整備、登下校の見回り 等

○体験活動

社会奉仕体験活動、自然体験活動、職場体験活動 等

○放課後等の学習活動

放課後、土曜日、休日における学習、スポーツ活動 等

地域

保護者

地域住民

PTA

地域の青少年

地域学校協働本部

★地域の人々や団体による「緩やかなネットワーク」を形成した任意性の高い体制

※従来の学校支援本部等をベースに学校と地域が組織的に連携・協働する連携協力体制を構築



地域学校協働本部の3つの要素

- ✓ コーディネート機能
- ✓ 多様な活動 (より多くの地域住民の参画による多様な地域学校協働活動の実施)
- ✓ 継続的な活動 (地域学校協働活動の継続的・安定的実施)

社会教育施設・団体

文化団体

スポーツ団体

企業・NPO等

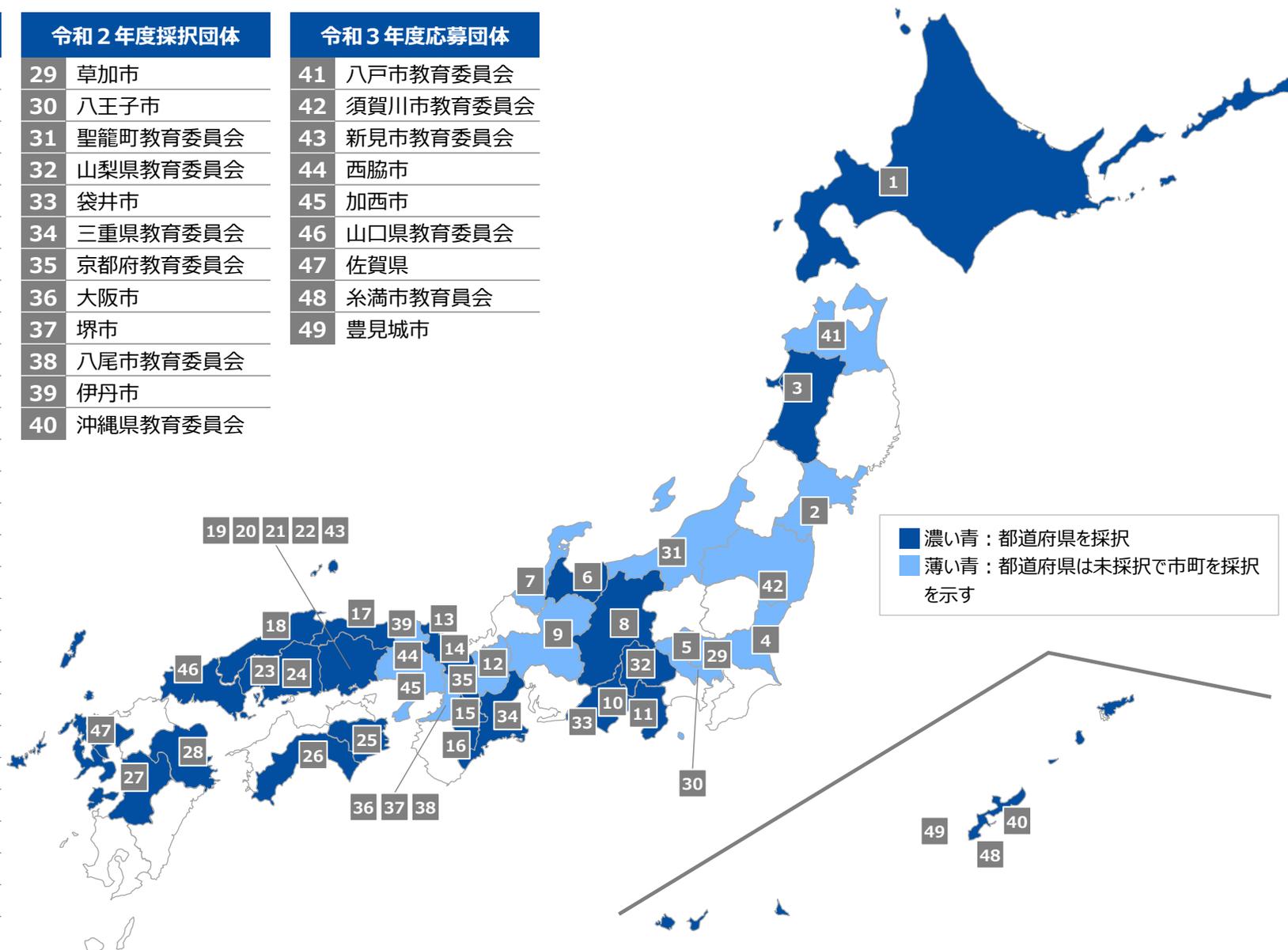
警察・消防等

幼児教育推進体制の充実・活用強化事業 採択団体一覧

令和元年度採択団体	
1	北海道教育委員会
2	気仙沼市教育委員会
3	秋田県
4	鹿嶋市
5	さいたま市
6	富山県教育委員会
7	金沢市
8	長野県教育委員会
9	岐阜市教育委員会
10	静岡県教育委員会
11	函南町
12	東近江市
13	舞鶴市
14	京丹波町
15	奈良県教育委員会
16	奈良市
17	鳥取県教育委員会
18	島根県教育委員会
19	岡山県
20	玉野市教育委員会
21	高梁市
22	美作市
23	広島県教育委員会
24	広島市教育委員会
25	徳島県
26	高知県教育委員会
27	熊本県教育委員会
28	大分県

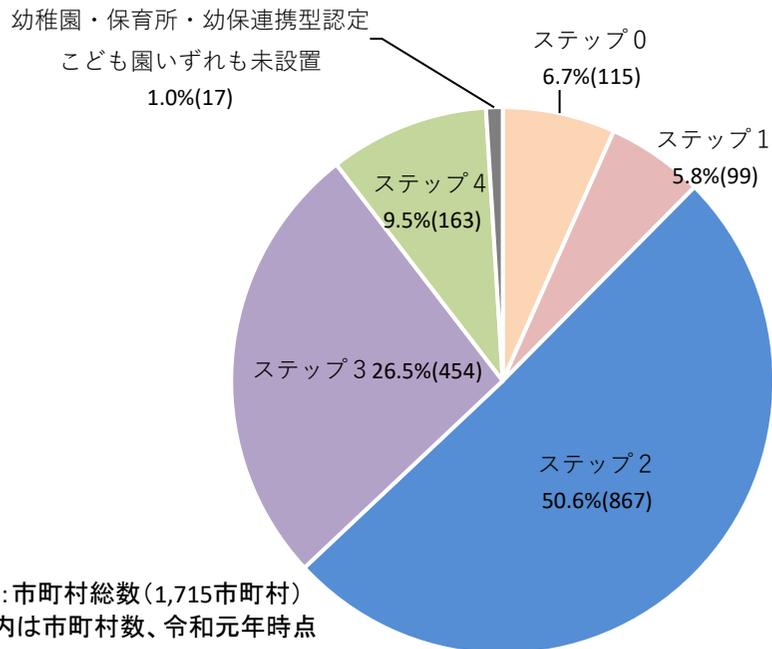
令和2年度採択団体	
29	草加市
30	八王子市
31	聖籠町教育委員会
32	山梨県教育委員会
33	袋井市
34	三重県教育委員会
35	京都府教育委員会
36	大阪市
37	堺市
38	八尾市教育委員会
39	伊丹市
40	沖縄県教育委員会

令和3年度応募団体	
41	八戸市教育委員会
42	須賀川市教育委員会
43	新見市教育委員会
44	西脇市
45	加西市
46	山口県教育委員会
47	佐賀県
48	糸満市教育委員会
49	豊見城市



※団体名は事業契約者

- 市町村における幼稚園等の教育と小学校教育との接続に向けた状況については、「ステップ2」が50.6% (867市町村)と最も多く、「ステップ3」、「ステップ4」、「ステップ0」、「ステップ1」と続く。



母数: 市町村総数 (1,715市町村)
()内は市町村数、令和元年時点

連携から接続へと発展する過程のおおまかな目安

(幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(平成22年11月11日 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議))

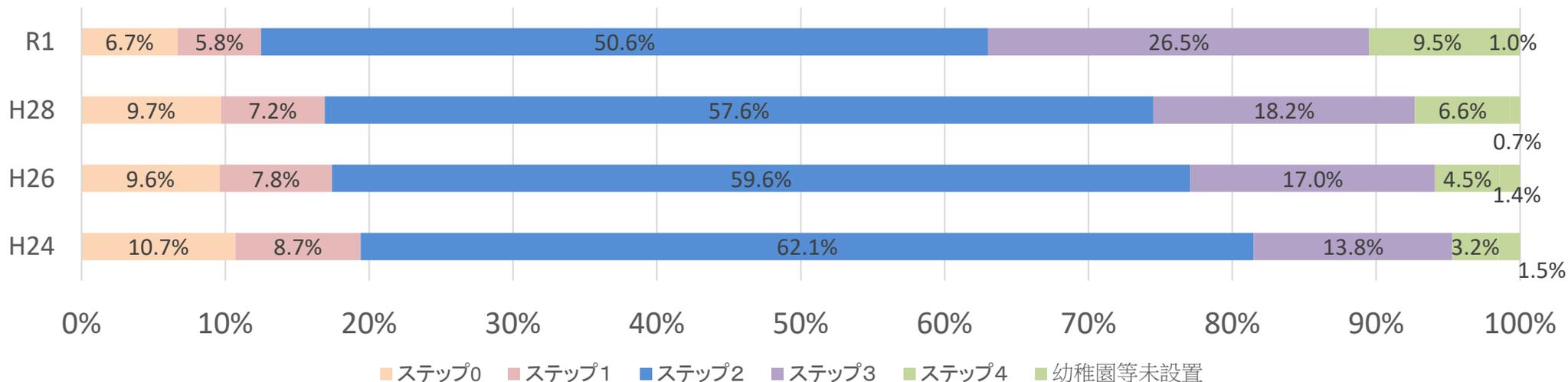
ステップ0: 連携の予定・計画がまだ無い。

ステップ1: 連携・接続に着手したいが、まだ検討中である。

ステップ2: 年数回の授業、行事、研究会などの交流があるが、接続を見通した教育課程の編成・実施は行われていない。

ステップ3: 授業、行事、研究会などの交流が充実し、接続を見通した教育課程の編成・実施が行われている。

ステップ4: 接続を見通して編成・実施された教育課程について、実施結果を踏まえ、更によりよいものとなるよう検討が行われている。



幼児教育推進体制・活用強化事業の主な成果

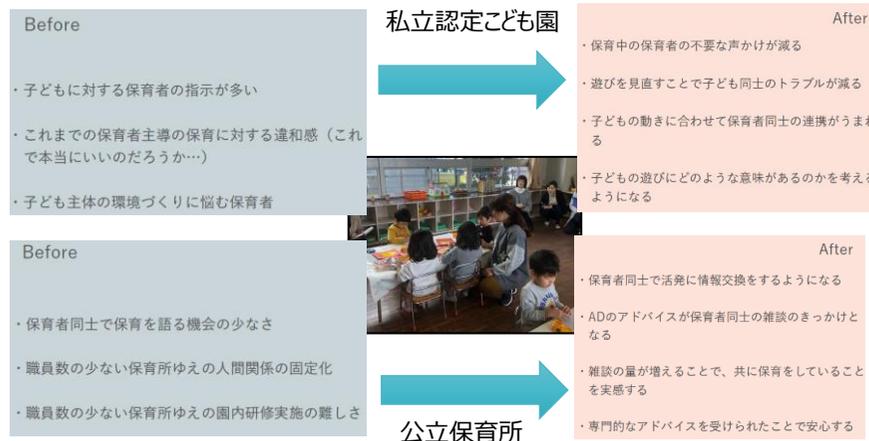
○ 幼保小連携の取組の充実・深化



教委主催の園小連携協議会で、小学校区単位（小1担任と幼保の園年長担任）でグループを作り、カリキュラム等の打合せ・協議の例（写真左）など管理職のみならず担任レベルでも具体的な連携が促進。幼小両免許を持つ教員が幼稚園側、小学校側双方に配置されている例もある。

○ 園種問わない幼児教育の質向上

幼稚園のみならず、公私立の認定こども園や保育所も含めた園種問わない幼児教育の質向上の取組促進



○ 小学校教育との接続を見据えた幼児期の教育の研究推進

小学校教育との接続も見据え、教委が主導した園種問わない幼児教育施設を活用した幼児期の教育の研究推進、域内幼児教育施設への普及。

○ 0歳からの学びの研究（園環境を活用した新たな生活や遊びの創造（市教委）



【0歳児】

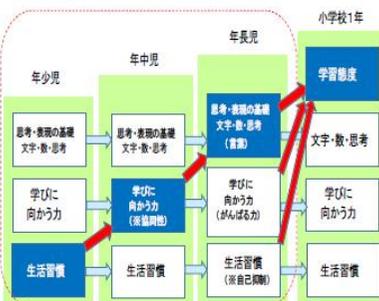


【2歳児】



【4歳児】

○ 幼小中一貫教育の取組の推進（市教委）



幼保小接続※学園共有）
保幼こども園、小中教員、保護者との連携
※中学校区内の公私立幼保こども園、小中学校を学園という。

思考・表現の基礎（文字・数・思考）
思考力の芽生え、数量や図形、標識や文字などへの関心
学びに向かう力
好奇心、協同性、考えを伝える力、がんばる力など
生活習慣
自立心、道徳性・規範意識の芽生え、健康な体、社会生活との関わりなど

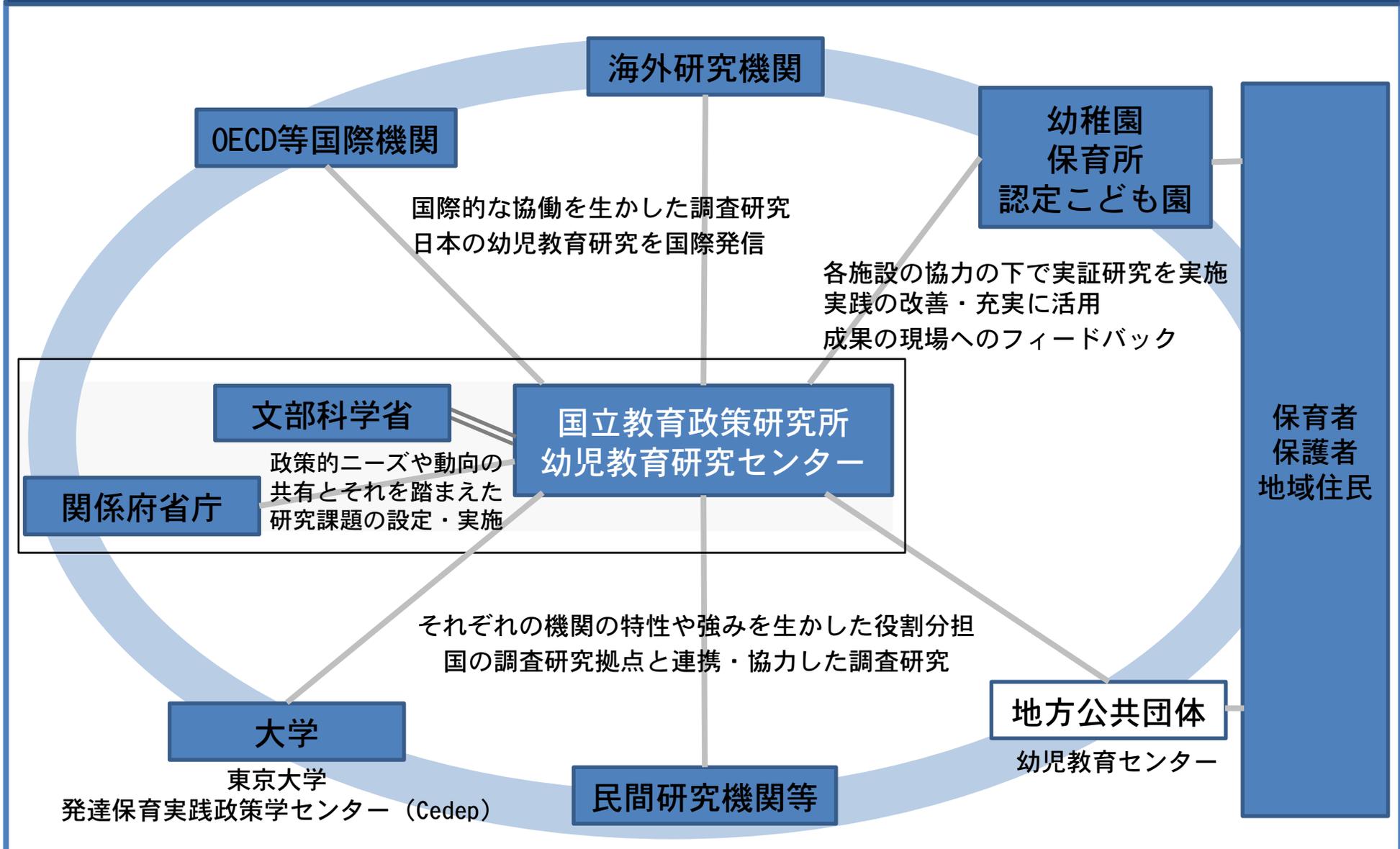


学園推進委員会を定期的に実施

○ 上記のほか、特別支援教育や要保護児童等に関する幼児教育施設と小学校との円滑な連携の取組例が見られる。

国立教育政策研究所 幼児教育研究センターについて

国の調査研究拠点を核とした研究ネットワークの構築イメージ



- 学校種や設置主体の違いを越えて、幼児の生活や学びについて共に考える機会は確保されているだろうか。
- 接続期のカリキュラムについて、地域で協働しながら方針を策定・共有していく体制は整えられているだろうか。
- 「幼児教育の終わりまでに育ててほしい姿」はどのように活用されているだろうか。

